

目次

本書をお読みになる前に	5
本書の表記	5
商標および著作権について	7
第1章 特長	
1 本パソコンの特長	10
運用面、セキュリティ面に優れたシンクライアント	10
内蔵フラッシュメモリへの書き込み保護について	11
2 OSについて	12
Windows XP Embedded with Service Pack 2について	12
管理者権限とユーザー アカウント	12
Windows のパスワード	13
Internet Explorer	13
言語オプションの選択	13
無線 LAN 使用時の通信データの暗号化	14
3 セキュリティ	15
第2章 各部名称	
1 各部の名称と働き	20
パソコン本体前面	20
パソコン本体上面	23
パソコン本体右側面	24
パソコン本体背面	26
パソコン本体下面	27
2 状態表示 LED	29
第3章 取り扱い	
1 保護管理ツールについて	32
初期設定などを変更する	33
2 ポインティングデバイス	35
フラットポイント	35
マウス	38
小型マウス（レーザー式）の取り扱い	39
マウスの接続のしかた	40
マウスの使い方	41
マウス接続時にフラットポイントを有効にする	43
3 キーボード	44
日本語キーボード	44
テンキーボード	47

4 バッテリ	48
バッテリを充電する	48
バッテリで運用する	49
バッテリ残量を確認する	50
取り扱い上の注意	52
内蔵バッテリパックを交換する	53
5 PC カードスロット	55
取り扱い上の注意	55
PC カードをセットする	55
PC カードを取り出す	57
6 ディスプレイ	59
液晶ディスプレイの明るさ変更	59
解像度と発色数	60
全画面表示と通常表示の切り替え	62
表示装置の切り替え	63
マルチモニタ機能	69
外部ディスプレイの走査周波数	73
7 音量	75
キーボードで調節する	75
画面上の音量つまみで設定する	75
再生時／録音時の音量設定	76
8 通信	78
LAN (有線 LAN)	78
無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠)	79
9 省電力	81
スタンバイ	81
注意事項	81
省電力の設定	82
スタンバイ	84
スタンバイからのリジューム	85

第 4 章 周辺機器の設置／設定／増設

1 周辺機器を取り付ける前に	88
インターフェースのご使用について	88
取り扱い上の注意	88
2 メモリ	90
メモリを増設する	90
3 プリンタ	94
接続	94

第5章 ソフトウェア

1 ソフトウェア一覧	96
搭載ソフト一覧	96
各ソフトウェアの紹介	96
2 ドライバ、ソフトウェアのインストールについて	99
リカバリディスクについて（格納ドライバとソフトウェア）.....	99

第6章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	102
2 BIOS セットアップの操作のしかた	103
BIOS セットアップを起動する	103
設定を変更する	105
各キーの役割	106
BIOS セットアップを終了する	107
3 メニュー詳細	108
情報メニュー	108
システムメニュー	109
詳細メニュー	109
セキュリティメニュー	111
起動メニュー	113
終了メニュー	114
4 BIOS のパスワード機能を使う	115
パスワードの種類	115
パスワードを設定する	115
パスワードを設定した後は	116
パスワードを忘れてしまったら	117
パスワードを変更／削除する	117
5 認証デバイスのセキュリティ機能を使う	119
スマートカード使用時のエラーメッセージ	119
6 BIOS が表示するメッセージ一覧	121
メッセージが表示されたときは	121
メッセージ一覧	122

第7章 お手入れ

1 パソコン本体のお手入れ	128
2 液晶ディスプレイのお手入れ	129
3 キーボードのお手入れ	130
4 マウスのお手入れ	131
USB マウス（ボール）のお手入れ	131
5 空冷用通風路のお手入れ	133

第8章 テーブル目次

1 テーブルに備えて	136
テレビ／ラジオなどの受信障害防止	136
自動車内での使用について	136
ドキュメントの確認	137
2 テーブル発生時の基本操作	138
本パソコンや周辺機器の電源を確認する	138
以前の状態に戻す	138
セーフモードで起動する	138
メッセージなどが表示されたらメモしておく	138
診断プログラムを使用する	139
リカバリ	140
3 起動・終了時のトラブル	141
4 Windows・ソフトウェア関連のトラブル	144
5 ハードウェア関連のトラブル	146
インターフェースのご使用について	146
ハードウェア関連のトラブル一覧	146
BIOS	147
メモリ	148
内蔵 LAN	148
デバイス	149
PC カード	149
スマートカード	150
バッテリ	150
ディスプレイ	151
サウンド	152
キーボード	152
マウス／ポインティングデバイス	152
USB	153
プリンタ	153
パソコン本体のお手入れ	154
その他	154
6 それでも解決できないときは	155
お問い合わせ先	155

第9章 仕様一覧／技術情報

1 本体仕様	158
2 その他の仕様	161
コネクタのピン配列と信号名	161

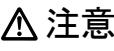
索引	163
-----------------	------------

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
      ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「Internet Explorer」をクリックする操作

```
↓  
「スタート」ボタン→「プログラム」→「Internet Explorer」の順にクリックします。
```

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニュー やサブメニュー または項目を、「-」(ハイフン) でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」(コロン) の後に記述する場合があります。

例：「システム」メニューの「言語 (Language)」の項目を「日本語 (JP)」に設定します。

```
↓  
「システム」-「言語 (Language)」: 日本語 (JP)
```

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いのモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ カスタムメイドオプション

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドで選択のオプションを取り付けている場合、メモリ容量などの記載が異なります。ご了承ください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
FMV-TC8360	本パソコン／パソコン本体
Microsoft® Windows® XP Embedded	Windows XP Embedded ／ Windows
Citrix Presentation Server™	Citrix Presentation Server

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットのURLアドレスは2008年8月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください(→『取扱説明書』)。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel および Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。

Citrix、ICA (Independent Computing Architecture)、MetaFrame、MetaFrame XP、および Program Neighborhood は、Citrix Systems, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。Citrix Presentation Server および SpeedScreen は、Citrix Systems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

Portshutter は、株式会社富士通ソフトウェアテクノロジーズの商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2008

Memo

第1章

特長

本パソコンの特長について説明しています。

1 本パソコンの特長	10
2 OSについて	12
3 セキュリティ	15

1 本パソコンの特長

運用面、セキュリティ面に優れたシンクライアント

本パソコンは、パソコン本体にハードディスクを搭載していないシンクライアントです。サーバー上にインストールされたソフトウェアを実行し、サーバー上にデータを保管するため、従来のパソコン（ファットクライアント）に比べて次のような特長があります。

■ ユーザー管理やソフトウェア管理がしやすい

- サーバーへのログオンが必須となるため、サーバー側でユーザーを一元管理できます。
- ソフトウェアもすべてサーバーにインストールされるため、ユーザー間でソフトウェアのバージョンが違うなどのトラブルを防げます。また、ソフトウェアの変更やバージョンアップにかかるコストを大幅に削減できます。
- 管理外のソフトウェアの無断インストールを防げます。また、ウイルスなどの対策もサーバー側で一元管理できます。

■ 故障などによるデータ消失のリスクを最小化

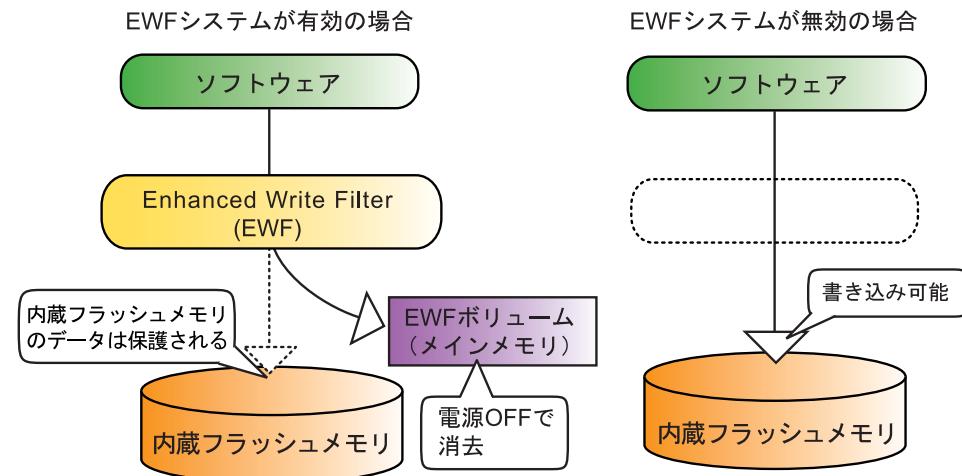
- 各クライアントがハードディスクを搭載していないため、クライアントの故障によるデータの損失がありません。

■ 情報漏洩に強い

- 各パソコンで作成した情報などはすべてサーバー側に保存されるため、万一本パソコンが盗難に遭った場合でも情報漏洩のリスクがありません。
- フロッピーディスクドライブや光ディスクドライブなどを搭載しておりません。また、外部記憶媒体による情報漏洩を防ぐために、「Portshutter」を使用してUSBメモリやコンパクトフラッシュカードなどの使用を制限できます。
- セキュリティ設定もサーバー側で行うため、セキュリティポリシーの管理・変更などが容易になります。また、個々のクライアント上での設定ミスが防げます。

内蔵フラッシュメモリへの書き込み保護について

本パソコンの OS や環境設定などのシステムデータは内蔵フラッシュメモリに保存されており、Enhanced Write Filter（以降、EWF と略します）システムによって保護されています。EWF は本パソコン特有のシステムで、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが発生した場合に、それらを内蔵フラッシュメモリに書き込む代わりにすべてメモリ上の EWF ボリュームに対して書き込みを行うことで、内蔵フラッシュメモリ内のシステムデータを保護します。



この EWF ボリュームへの書き込みは、ソフトウェアなどからは内蔵フラッシュメモリ上のシステムデータに書き込みを行ったのとまったく同じように見えていますが、実際には書き込まれたデータはメモリ上に記憶されるため、通常の方法でネットワークなどの設定変更を行った場合、本パソコンを再起動すると初期状態に戻ってしまいます。

本パソコンでは、ネットワークの設定などの初期状態を変更したい場合は、「保護管理ツール」を使用してこの EWF システムを一時的に無効にすることにより、内蔵フラッシュメモリ内のシステムデータに直接書き込むことができます。

「保護管理ツール」については「取り扱い」 - 「保護管理ツールについて」（→ P.32）をご覧ください。

POINT

- ▶ 電源を切らずにスタンバイ状態にした場合は、EWF ボリュームへの記録内容は保持されます。ただし、スタンバイ状態のまま電源が切れた場合は、EWF ボリュームの内容は消去されますのでご注意ください。

2 OSについて

Windows XP Embedded with Service Pack 2について

本パソコンに搭載されているオペレーティングシステム（OS）は、Windows XP Embedded with Service Pack 2です。

Windows XP EmbeddedはWindows XP Professionalと同様の操作性をもっていますが、コンポーネント化されたバージョンであるため、目的にあわせて最適な機能のみを実装することができるOSです。本パソコンでは、シンクライアントとしての運用性、安全性のために、必要な機能のみに限定しております。

ご使用にあたっては、富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) の「お使いになる上での注意事項」をご覧ください。

管理者権限とユーザー アカウント

本パソコンのご購入時の設定では、Administrator（コンピュータの管理者）アカウントのみが作成されています。Administratorのパスワードは設定されておりませんので、最初にこのパスワードを設定してください。

その後、必要に応じて新しいアカウントを作成してください。

アカウントの作成方法は次のとおりです。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「ユーザー アカウント」をダブルクリックします。
「ユーザー アカウント」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「新しいアカウントを作成する」をクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

重要

- ▶ 本パソコンは、ご購入時は内蔵フラッシュメモリへの書き込みができないように設定されています。Administratorへのパスワードの設定、ユーザー アカウントの追加はご購入時の状態でも行うことができますが、再起動を行うとそれらの設定は消去されて元に戻ってしまいます。
再起動をしても設定が保存されるようにするには、「保護管理ツール」を使用して EWF システムを一時的に無効にする必要があります。
「保護管理ツール」については「取り扱い」－「保護管理ツールについて」（→ P.32）をご覧ください。

POINT

- ▶ ユーザー アカウントには、「コンピュータの管理者」と「制限付きアカウント」が用意されています。本パソコンを管理される方用に「コンピュータの管理者」、通常業務でお使いになる方用に「制限付きアカウント」をお勧めします。

Windows のパスワード

Windows の起動時やレジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。

複数のユーザーで 1 台のパソコンを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。

パスワードの設定方法は次のとおりです。

- 1** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2** 「ユーザー アカウント」をダブルクリックします。
「ユーザー アカウント」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「アカウントを変更する」をクリックします。
- 4** パスワードを設定するアカウントをクリックします。
- 5** 「パスワードを作成する」または「パスワードを変更する」をクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

Internet Explorer

本パソコンには Internet Explorer が搭載されておりますが、Citrix Presentation Server の Web インターフェースでの使用を主な用途として想定しています。セキュリティの一元管理の観点からも、インターネットの閲覧には「リモートデスクトップ接続」または、「Citrix Presentation Server クライアント」を使用し、サーバー側の Internet Explorer を使用することをお勧めします。

言語オプションの選択

本パソコンは、日本語にのみ対応しています。

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の「地域と言語のオプション」で使用する言語に日本語以外を選択する操作が可能ですが、変更は行わないでください。

重要

- ▶ EWF システムが有効（「保護設定」）になっている状態では、設定後に再起動することによって元の状態に戻すことができますが、EWF システム無効（「保護解除」）の状態で変更してしまうと、以後システムが動作しなくなるなどの不具合の原因となることがあります。管理者の方は充分にご注意ください。
なお、誤って変更してしまいシステムが動作しなくなった場合はリカバリを実行してください。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

無線 LAN 使用時の通信データの暗号化

対象機種 無線 LAN 搭載機種

無線LANを使ってネットワークに接続すると、無線が届く範囲内にある他の無線LAN搭載機器から通信内容を他人に読み取られてしまう危険性があるので、データを暗号化することが必要です。

本パソコンには、無線LANのデータを暗号化するための機能が搭載されています。

詳しくは、『IEEE 802.11a/g準拠 内蔵無線LANをお使いになる方へ』をご覧ください。

なお、無線LANアクセスポイント経由でネットワークに接続している場合は、無線LANアクセスポイントのマニュアルもご覧ください。

3 セキュリティ

本パソコンは、次のセキュリティ機能をサポートしています。

- BIOS パスワード (→ P.15)
- Portshutter (→ P.15)
- 指紋センサー (→ P.15)
- スマートカードドリーダ／ライタ (→ P.16)
- 静脈センサー (→ P.16)
- 盗難防止用ロック取り付け穴 (→ P.17)

■ BIOS パスワード

- 不正利用防止

パソコンの起動時やレジューム時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、パソコンの設定が変更できなくなるなどの制限がつきます。

管理者用のパスワードは本パソコンを管理される方のみが保管し、通常業務でお使いになる方にはユーザー用パスワードのみを通知されることをお勧めします。

詳しくは、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.115) をご覧ください。

■ Portshutter

- 情報の持ち出し防止

USB、PCカード、シリアル、パラレルなどの接続ポートの使用を制限できます。「Portshutter」を使うことにより、パソコンからの情報漏洩やパソコンへの不正なプログラムの導入を防止することができます。

USBポートを無効にする場合、USB機器ごとに有効/無効の設定が可能なため、業務上必要な機器を接続しつつ、セキュリティを低下させるおそれのある機器は無効にすることができます。

詳しくは、添付の「リカバリディスク」にある「¥VALUEADD¥Portshut¥Manual¥操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

■ 指紋センサー

- Windows XP Embedded へのログオン認証
- Citrix Presentation Server へのログオン認証

対象機種 指紋センサー搭載機種

◀ 重 要

- ▶ 指紋センサーをお使いになるには、別売の「Secure Login Box」および「SMARTACCESS/Premium」のライセンスが必要です。
- ▶ 指紋認証は、ネットワークに接続され「Secure Login Box」にアクセス可能な状態でのみ使用できます。ネットワークへの接続前には使用できません。

パソコンやWindowsの起動時、Citrix Presentation Serverのログオン時に指紋認証によるセキュ

リティを設定できます。従来のパスワード認証に変わり、指紋による個人認証を行います。パソコンを使用する場合は、指紋センサー部で指をスライドします。パスワードを覚える必要がなく、個々の指紋を記憶できるので、簡単に安全に使用できます。詳しくは、別売の「SMARTACCESS/Premium」のマニュアルをご覧ください。

■ スマートカードリーダ／ライタ

- Windows XP Embedded へのログオン認証
- Citrix Presentation Server へのログオン認証

対象機種 スマートカードホルダー搭載機種

☞ 重要

- ▶ PC カードスロットにスマートカードホルダーをセットすることにより使用できます。詳しくは、「取り扱い」－「PC カードをセットする」(→ P.55) をご覧ください。

パソコンやWindowsの起動時、Citrix Presentation Serverのログオン時にスマートカード認証によるセキュリティを設定できます。スマートカードにはIDやパスワードなどのセキュリティ情報を格納します。1枚のスマートカードに管理者用とユーザー用のパスワードを、1つずつ設定できます。

パソコンを使用する場合は、パソコン本体にスマートカードをセットし、PIN（個人認証番号）を入力します。スマートカードをセットしないとセキュリティが解除できないため、従来のパスワード認証よりも安全に使用できます。

詳しくは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

■ 静脈センサー

- Windows XP Embedded へのログオン認証
- Citrix Presentation Server へのログオン認証

☞ 重要

- ▶ 静脈認証をお使いになるには、別売の「Secure Login Box」、「手のひら静脈センサー」、「SMARTACCESS/Premium」のライセンスが必要です。
- ▶ 静脈認証は、ネットワークに接続され「Secure Login Box」にアクセス可能な状態でのみ使用できます。ネットワークへの接続前には使用できません。
- ▶ 「手のひら静脈センサー」を使用する場合は、「手のひら静脈センサー」のドライバのインストールを行う必要があります。

パソコンやWindowsの起動時、Citrix Presentation Serverのログオン時に静脈認証によるセキュリティを設定できます。従来のパスワード認証に変わり、静脈による個人認証を行います。

パソコンを使用する場合は、静脈センサー部に手のひらをかざします。パスワードを覚える必要がなく、個々の静脈を記憶できるので、簡単に安全に使用できます。詳しくは、別売の「SMARTACCESS/Premium」のマニュアルをご覧ください。

■ 盗難防止用ロック取り付け穴

● 機器の持ち出し防止

パソコンの盗難という危険性があります。パソコンを鍵のかかる場所に設置または保管するなどの対策をとることもできますが、パソコン自体にも盗難防止用の機能が備えられています。本パソコンの盗難防止用ロック取り付け穴に盗難防止用ケーブルを取り付けることで、パソコン本体の盗難の危険性が減少します。

盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「各部名称」－「パソコン本体背面」(→ P.26)をご覧ください。

Memo

第 2 章

各部名称

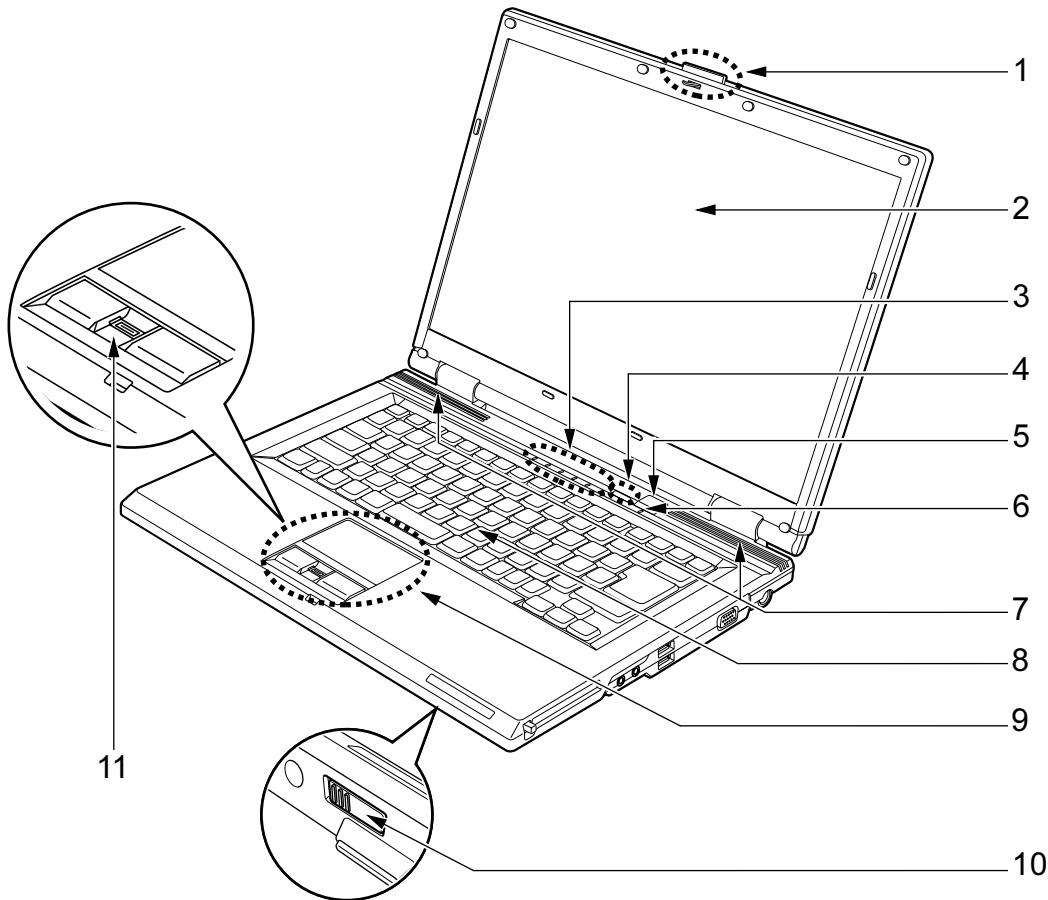
各部の名称と役割について説明しています。

1 各部の名称と働き	20
2 状態表示 LED	29

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面

各番号をクリックすると、説明箇所へジャンプします。



1 ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。

液晶ディスプレイを開くときは、ラッチを押してロックを外します。

2 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

POINT

- ▶ 液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- ・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- 省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「コントロールパネル」—「電源オプション」から行えます。また、スクリーンセーバーの設定については、Windowsのヘルプをご覧ください。
- ・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

3 状態表示 LED

本パソコンの状態が表示されます。

「状態表示 LED」（→ P.29）

4 Support ボタン

Support ボタンには、次の機能があります。

- ・Windows 起動時

「FMV サポートナビ」が起動します。

「診断プログラム」（→ P.139）の起動や本パソコンの情報（型名や製造番号）が確認できます。

（本パソコンがスタンバイ状態でも、Support ボタンを押すと「FMV サポートナビ」が起動します。）

- ・シャットダウン時

Windows が起動していないときは、「起動メニュー」が表示されます。

「起動デバイス」の選択、および「診断プログラム」、「BIOS の設定」が実行できます。

5 電源ボタン (○)

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイおよびレジュームさせたりするためのボタンです。

POINT

- ▶ 電源ボタンを4秒以上押さないでください。

電源ボタンを4秒以上押し続けると、パソコン本体の電源が切れてしまいます。

6 電源ランプ

本パソコンの電源が入っているときに点灯します。

7 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

「取り扱い」—「音量」（→ P.75）

重要

- ▶ 音量は、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。スピーカーが故障する原因となります。

8 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えたりします。

「取り扱い」 – 「キーボード」 (→ P.44)

9 フラットポイント

マウスポインタを操作します。

「取り扱い」 – 「フラットポイント」 (→ P.35)

10 ワイヤレススイッチ（無線 LAN 搭載機種の場合のみ）

無線 LAN による通信機能の ON と OFF を切り替えます。

ワイヤレススイッチを右側へスライドさせることにより、通信機能が ON になります。

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFF にしてください。

「取り扱い」 – 「無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠)」 (→ P.79)

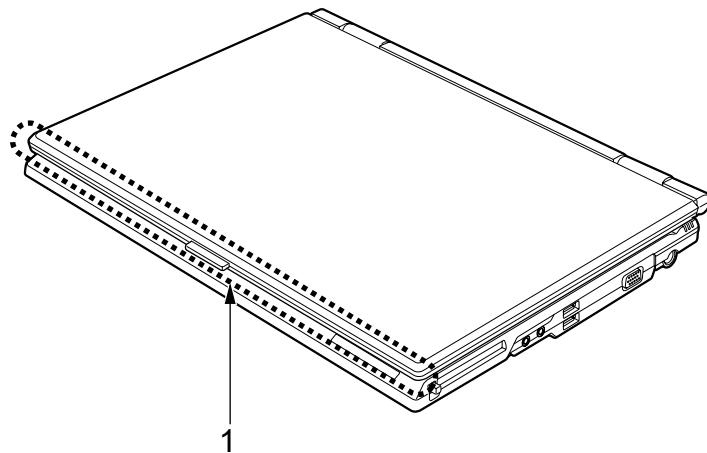
11 指紋センサー（指紋センサー搭載機種の場合のみ）

指紋を識別してユーザー認証を行うことができます。

「特長」 – 「セキュリティ」 – 「指紋センサー」 (→ P.15)

パソコン本体上面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



(イラストはモデルや状況により異なります)

1 内蔵無線 LAN アンテナ（無線 LAN 搭載機種の場合のみ）

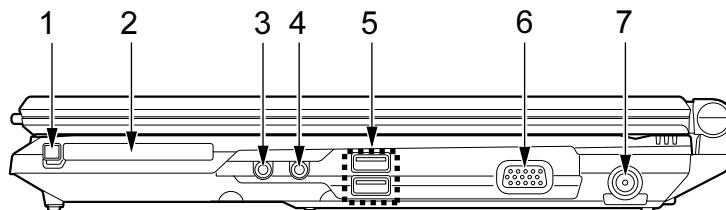
無線 LAN 用のアンテナが搭載されています。

本パソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

「取り扱い」－「無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠)」(→ P.79)

パソコン本体右側面

各番号をクリックすると、説明箇所へジャンプします。



(イラストはモデルや状況により異なります)

重要

- ▶ コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。

1 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。

「取り扱い」 - 「PC カードを取り出す」 (→ P.57)

2 PC カードスロット (PCI)

PC カードをセットするためのスロットです。

「取り扱い」 - 「PC カードスロット」 (→ P.55)

3 ヘッドホン端子 (H)

市販のヘッドホンを接続することができます (外径 3.5mm のミニプラグに対応)。

ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

△注意



- ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。
耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



- 電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンやイヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。
突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

4 マイク端子 (M)

Citrix Presentation Server の Advanced Edition、または Enterprise Edition のみで使用できます。

市販のマイクを接続することができます (外径 3.5mm のミニプラグに対応)。

ただし、市販されている一部のマイク製品 (ダイナミックマイクなど) には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

重要

- ▶ マイク端子には、マイク以外のコネクタを接続しないでください。故障の原因となることがあります。

5 USB コネクタ (●□□)

USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

POINT

- ▶ ハブなどを経由してUSB2.0に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

6 外部ディスプレイコネクタ (□)

プロジェクタやアナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

「取り扱い」—「表示装置の切り替え」(→ P.63)

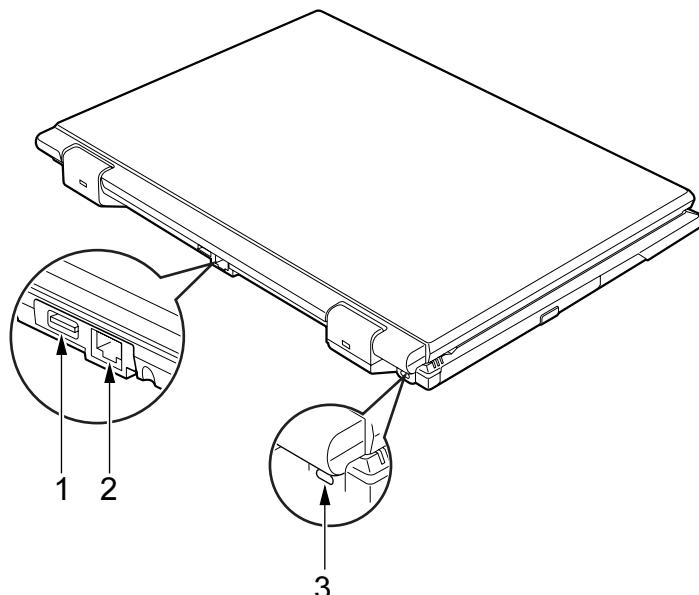
「取り扱い」—「マルチモニタ機能」(→ P.69)

7 DC-IN コネクタ (—)

パソコン本体に添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

パソコン本体背面

各番号をクリックすると、説明箇所へジャンプします。



重要

- コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。

1 USB コネクタ (●↔+)

USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

POINT

- ハブなどを経由してUSB2.0に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

2 LAN コネクタ (品)

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

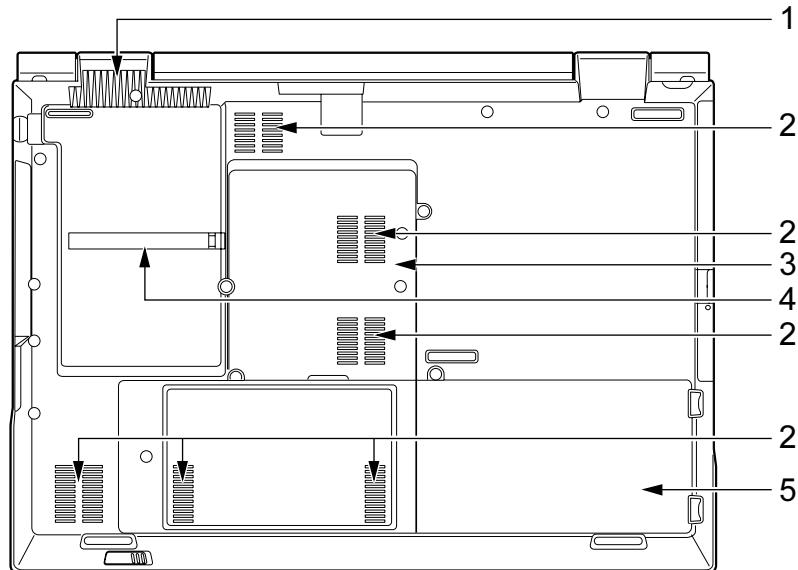
「取り扱い」 — 「LAN（有線 LAN）」 (→ P.78)

3 盗難防止用ロック取り付け穴

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

パソコン本体下面

各番号をクリックすると、説明箇所へジャンプします。



2

1 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。

本パソコンの電源を入れると、内部のファンが数秒間回転します。

また、パソコン本体内部の温度が高くなると内部のファンが回転し、熱が放出されます。このため、起動時や動作中にファンによる回転音が発生しますが、パソコン本体の放熱のためであり、異常ではありません。

⚠ 注意



- 排気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

⚠ 重要

- ▶ 排気孔からは熱風が出ます。排気孔付近には手を触れないでください。
- ▶ 排気孔の近くに物を置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物が熱くなることがあります。

2 吸気孔

空気を取り込むための穴です。

⚠ 注意



- 吸気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

3 メモリ（拡張 RAM モジュール）スロット

本パソコンのメモリをセットするためのスロットです。
「周辺機器の設置／設定／増設」—「メモリ」(→ P.90)

4 ダストキヤッチャー

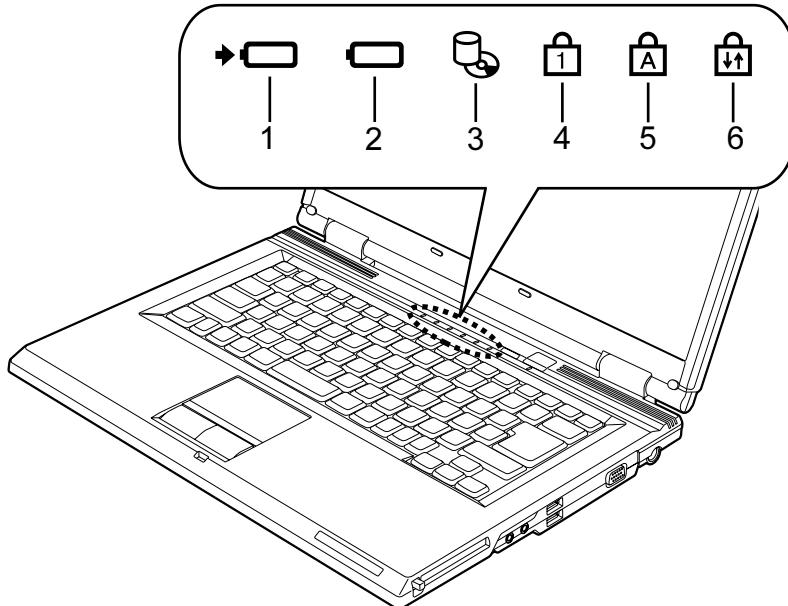
空冷用通風路に蓄積するほこりを取り除きやすくなります。
「お手入れ」—「空冷用通風路のお手入れ」(→ P.133)

5 内蔵バッテリパック

内蔵バッテリパックが装着されています。
「取り扱い」—「内蔵バッテリパックを交換する」(→ P.53)

2 状態表示 LED

各番号をクリックすると、説明箇所へジャンプします。



POINT

- ▶ 電源を切っている場合は、充電中を除いて状態表示 LED の全表示が消灯します。

1 バッテリ充電ランプ (→ 1)

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリパックの充電状態を表示します。

「取り扱い」 - 「バッテリを充電する」 (→ P.48)

LED 表示	内蔵バッテリパックの充電状態
緑色点灯	充電終了
オレンジ点灯	充電中
オレンジ点滅	充電停止中 (バッテリ温度アラーム時など ^注)

注 : バッテリ温度アラームとは、内蔵バッテリパックが熱をもって温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったりした場合に、バッテリの保護機能が働いて充電を停止することです。

2 バッテリ残量ランプ (■)

本パソコンに接続されている内蔵バッテリパックの残量を表示します。

「取り扱い」 - 「バッテリ残量を確認する」 (→ P.50)

状態表示 LED	バッテリの状態
緑色点灯／点滅	バッテリ残量 100%～50%
オレンジ点灯／点滅	バッテリ残量 49%～13% 内蔵バッテリパック装着後 4 秒間、オレンジ点滅している場合は、バッテリ残量計測中
赤色点灯／点滅	バッテリ残量 12%以下 <small>注</small> 早い間隔で赤色点滅している場合は、バッテリが正しく充電されていません
消灯	バッテリ未接続時

注：この状態を LOW バッテリ状態といいます。

「取り扱い」 - 「LOW バッテリ状態」 (→ P.51)

3 内蔵フラッシュメモリアクセス表示 (■)

内蔵フラッシュメモリにアクセスしているときに点灯します。

4 Num Lock ランプ (■)

キーボードがテンキーモードのときに点灯します。【Num Lk】キーを押して、テンキー モードの設定と解除を切り替えます。

「取り扱い」 - 「キーボード」 (→ P.44)

5 Caps Lock ランプ (■)

アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

【Shift】 + 【Caps Lock】キーを押して、アルファベットの大文字／小文字の入力モードを切り替えます。

「取り扱い」 - 「キーボード」 (→ P.44)

6 Scroll Lock ランプ (■)

画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。

【Fn】 + 【Num Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。

点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

第3章

取り扱い

3

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

1 保護管理ツールについて	32
2 ポインティングデバイス	35
3 キーボード	44
4 バッテリ	48
5 PC カードスロット	55
6 ディスプレイ	59
7 音量	75
8 通信	78
9 省電力	81

1 保護管理ツールについて

「保護管理ツール」を使用して EWF システムの状態を一時的に無効にし、初期設定などの変更を内蔵フラッシュメモリに直接書き込む方法について説明しています。

☞ 重要

- ▶ 「保護管理ツール」は、「コンピュータの管理者」のアカウントでログオンしている場合のみお使いいただけます。

■ 保護管理ツールの起動

「保護管理ツール」を起動するには、次のように操作します。

- 1 「コンピュータの管理者」のアカウントでログオンします。
- 2 画面右下の通知領域にある「保護管理ツール」アイコン~~☒~~をダブルクリックします。
「保護管理ツール」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「保護管理ツール」が起動されました。
「保護管理ツール」を終了するには、画面右上の「閉じる」ボタンをクリックします。

■ 現在の状態を確認する

「保護管理ツール」を起動すると表示される「保護管理ツール」 ウィンドウの「現在の状態：」から EWF システムの状態を確認できます。

● 保護設定

EWFシステムが有効で、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが禁止された状態です。ソフトウェアなどからの書き込みは、メモリ上のEWFボリュームに書き込まれるため、再起動するとすべての設定が無効となります。

詳しくは、「特長」－「本パソコンの特長」－「内蔵フラッシュメモリへの書き込み保護について」(→P.11)をご覧ください。

POINT

- ▶ ご購入時は、「保護設定」状態に設定されています。

● 保護解除

EWFシステムが無効で、内蔵フラッシュメモリの書き込みが可能な状態です。各種設定を変更する場合は、この状態に切り替えます。

初期設定などを変更する

EWFシステムを一時的に無効にし、初期設定などの変更を内蔵フラッシュメモリ内のシステムデータに直接書き込むには、次のように操作します。

重要

- ▶ EWFシステムを無効にし、初期設定などを変更した後は、必ず「保護設定」状態に戻し、EWFシステムを有効にしてください。

■「保護解除」ボタンを使用する

初期設定などを変更する場合、通常はこのボタンを使用します。

- 1 画面右下の通知領域にある (保護管理ツール) をダブルクリックして起動します。
「現在の状態：」が「保護設定」になっていることを確認します。
- 2 「保護解除」ボタンをクリックします。
画面の指示に従い操作します。
- 3 「保護管理ツール」を終了し、本パソコンを再起動します。
EWFシステムが解除されます。
- 4 「コンピュータの管理者」または、「制限付きアカウント」でログオンし、必要な設定を行います。
- 5 通知領域の (保護管理ツール) をダブルクリックして起動します。
「現在の状態：」が「保護解除」になっていることを確認します。

POINT

- ▶ 「制限付きアカウント」でログオンしている場合は、「コンピュータの管理者」のアカウントでログオンし直してください。

- 6 「保護設定」ボタンをクリックします。
画面の指示に従い操作します。
- 7 「保護管理ツール」を終了し、本パソコンを再起動します。
EWFシステムが有効になります。
- 8 手順4で行った設定が内蔵フラッシュメモリに書き込まれました。
設定が反映されていることを確認してください。
また「保護管理ツール」の「現在の状態：」が「保護設定」になっていることを確認してください。

■「反映」ボタンを使用する

「保護設定」状態中に、なんらかの設定を、保護解除をしなくても即座に反映させたいときに使用します。

重要

- ▶ 「反映」ボタンを使用すると、ボタンを押す前までの各種設定がすべて内蔵フラッシュメモリに書き込まれます。意図していない設定が書き込まれないためにも、通常の変更には「保護解除」ボタンの使用による変更手順をお勧めします。

- 1 必要な設定を行います。
- 2 画面右下の通知領域にある (保護管理ツール) をダブルクリックして起動します。
「現在の状態 :」が「保護設定」になっていることを確認します。
- 3 「反映」ボタンをクリックし、「はい」をクリックします。
- 4 「OK」をクリックした後、本パソコンを再起動します。

重要

- ▶ 再起動を行わないと内蔵フラッシュメモリへの書き込みは行われません。
「反映」ボタンを押した後、必ず本パソコンを再起動してください。

- 5 手順 4 で行った設定が内蔵フラッシュメモリに書き込まれました。

■ 操作を無効にする

「保護管理ツール」ウィンドウで「保護解除」／「保護設定」／「反映」ボタンを使用した後に「設定取消」ボタンを使用すると、その操作を無効にすることができます。

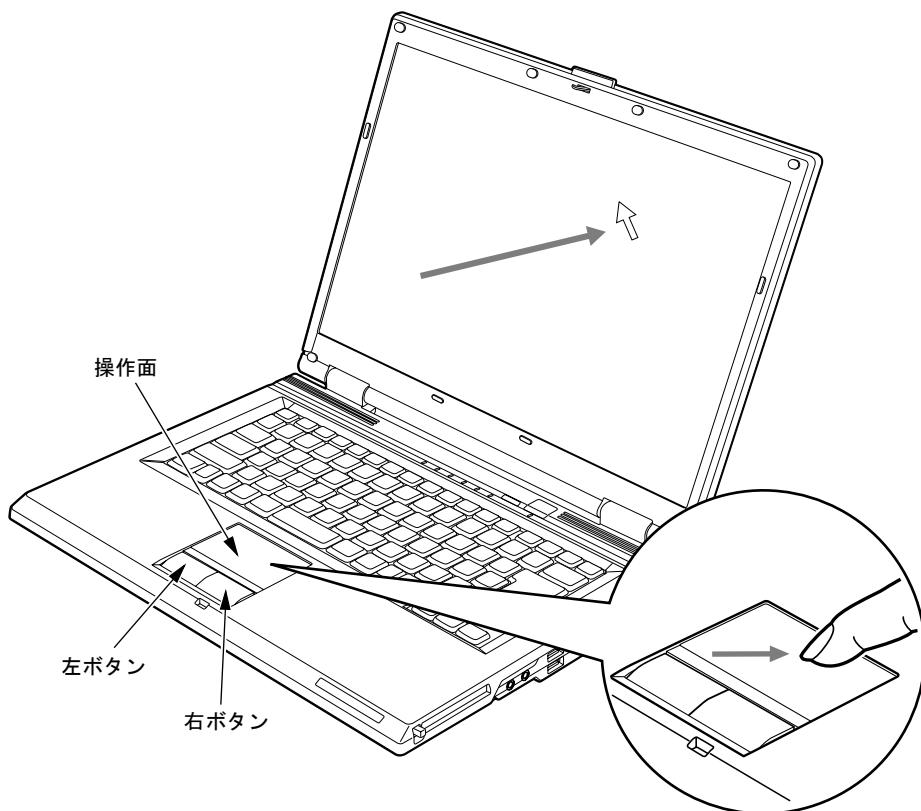
重要

- ▶ 「設定取消」ボタンでは、内蔵フラッシュメモリに書き込まれた変更内容を無効にすることはできません。
本機能は、本パソコンの設定をご購入時の状態に戻すものではありません。

2 ポイントティングデバイス

フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作で画面上の矢印（マウスポインタ）を動かすことのできる便利なポインティングデバイスで、操作面とその下側にある2つのボタンで構成されています。操作面は、マウスでいえばボールやセンサー部分の機能をもち、操作面を上下左右に指先でなぞることにより画面上のマウスポインタを移動させます。また、軽くたたく（タップする）ことにより、クリックやダブルクリック、ドラッグなどの操作を行うこともできます。左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はソフトウェアにより異なります。



(イラストはモデルや状況により異なります)

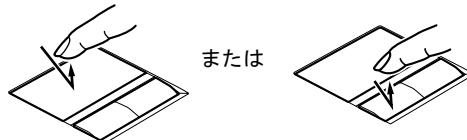
POINT

- ▶ フラットポイントは、その動作原理上、お使いになる方の指先の乾燥度などにより、ポイントティング動作に若干の個人差が発生する場合があります。
- ▶ フラットポイントは表面の結露、湿気などにより、誤動作することがあります。また濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの表面が汚れている場合はマウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- ▶ フラットポイントとマウスの同時使用については、「マウスのプロパティ」ウィンドウで設定できます。詳しくは、「マウス接続時にフラットポイントを有効にする」(→ P.43) をご覧ください。

■ フラットポイントの使い方

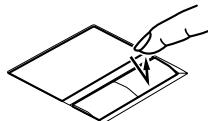
● クリック／タップ

操作面を 1 回軽くたたく（タップ）か、左ボタンをカチッと 1 回押して（クリック）すぐ離すことです。



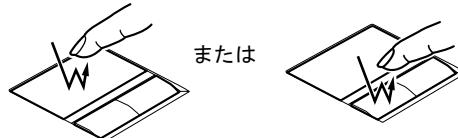
● 右クリック

右ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。



● ダブルクリック／ダブルタップ

操作面を 2 回連続して軽くたたく（ダブルタップ）か、左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して（ダブルクリック）、すぐ離すことです。



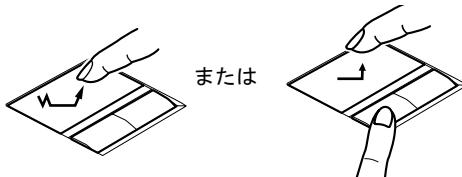
● ポイント

マウスポインタをメニューなどに合わせることです。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。



● ドラッグ

マウスポインタを任意の位置に移動し、操作面を素早く2回軽くたたき、2回目にたたいたときに指を操作面上から離さないで希望の位置までなぞり、指を離します。または、マウスポインタを任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。



POINT

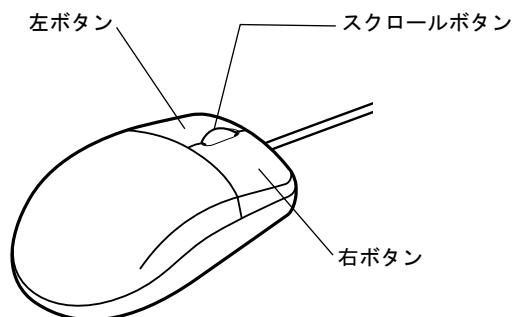
- ▶ 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで変更できます。
また、「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、マウスポインタやダブルクリックなども変更できます。
「マウスのプロパティ」ウィンドウを表示するには、次のように操作してください。
 - ・「コントロールパネル」ウィンドウにある「マウス」アイコンをクリックします。
- ▶ フラットポイントの操作面でクリックなどの操作を行う場合は、指先で軽く、素早く触れてください。力を入れて行う必要はありません。
- ▶ マウスポインタは、フラットポイントの操作面をなぞった方向に移動します。操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から離し、適当な場所に指を下ろしてからもう一度なぞってください。

マウス

カスタムメイドの選択により、USB マウス、USB マウス（光学式）、小型マウス（レーザー式）のいずれかが添付されています。

特に断りがない場合は、USB マウス、USB マウス（光学式）、小型マウス（レーザー式）をまとめて「USB マウス」と呼んでいます。

■ USB マウス／USB マウス（光学式）／小型マウス（レーザー式）



POINT

- ▶ マウスは、定期的にクリーニングしてください（→ P.131）。
- ▶ お使いになるソフトウェアによっては、スクロールボタンによる画面のスクロールができない場合があります。

□ USB マウス（光学式）／小型マウス（レーザー式）について

底面からの光により照らし出されている陰影をオプティカル（光学）センサーで検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使用することができます。

重要

- ▶ オプティカル（光学）センサーについて
 - ・ USB マウス（光学式）は、マウス底面から赤い光を発しています。直接眼に向けると、眼に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
 - ・ 小型マウス（レーザー式）は、マウス底面から眼には見えないレーザー光を発しています。直接眼に向けると、眼に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
 - ・ センサー部分を汚したり、傷をつけたりしないでください。
 - ・ 発光部分を他の用途に使用しないでください。

POINT

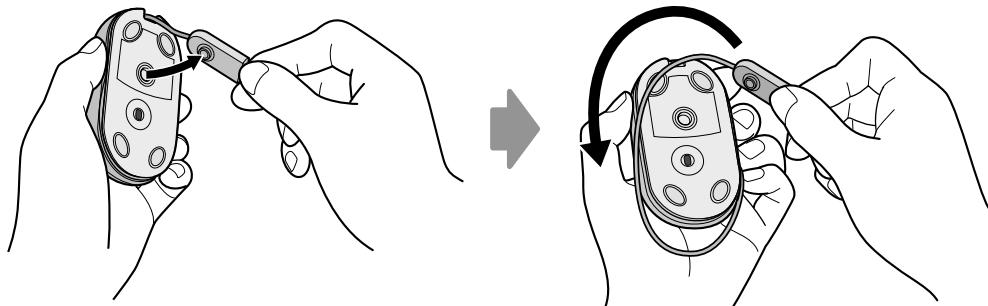
- ▶ USB マウス（光学式）および小型マウス（レーザー式）は、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢のあるもの
 - ・ 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- ▶ マウスパッドをお使いになる場合は、色が濃く無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

- ▶ USB マウス（光学式）および小型マウス（レーザー式）は、非接触でマウスの動きを検知しているため、特にマウスパッドを必要としません。ただし、マウス本体は接触しているので、傷がつきやすい机やテーブルの上では、傷を防止するためにマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

小型マウス（レーザー式）の取り扱い

■ ケーブルを取り外す

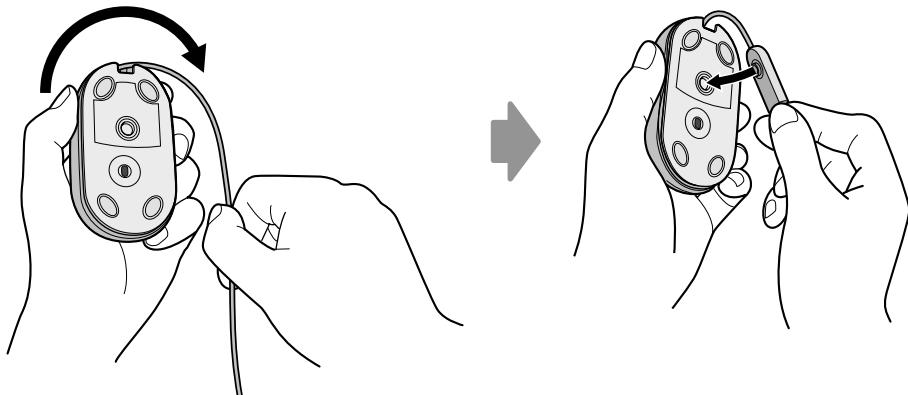
マウスの底面から USB コネクタを取り外してから、ケーブルを取り外します。



3

■ ケーブルを収納する

マウスにケーブルを巻きつけ、USB コネクタをマウスの底面に固定します。



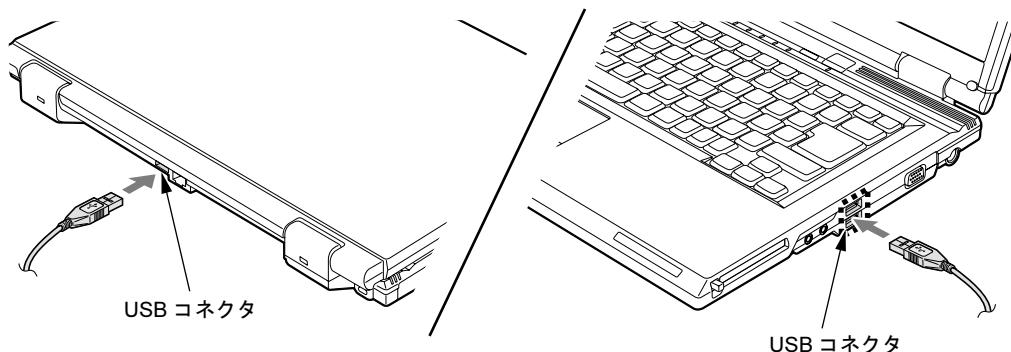
マウスの接続のしかた

POINT

- ▶ 本パソコンにマウスを接続すると、自動的にフラットポイントが使えなくなります。
マウスを接続したときにフラットポイントと併用する場合は、「マウス接続時にフラットポイントを有効にする」(→ P.43) をご覧ください。

1 本パソコンの USB コネクタに、USB マウスを接続します。

USB コネクタと USB マウスのコネクタの内側の形状を確認し、形を互いに合わせて、まっすぐに差し込んでください。



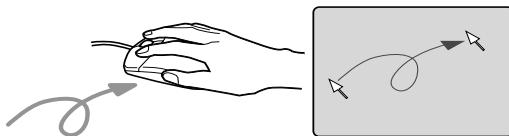
POINT

- ▶ USB マウスによっては、ドライバのインストールが必要なことがあります。お使いになる USB マウスのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。
- ▶ Windows が起動していないときは、USB マウスはお使いになれません。

マウスの使い方

■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手を載せ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、マウスポインタが同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



■ ボタンの操作

● クリック

マウスの左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。



● 右クリック

マウスの右ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。



● ダブルクリック

マウスの左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すことです。



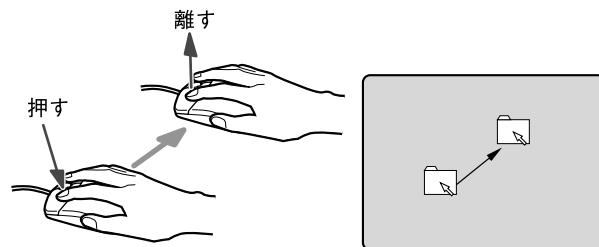
● ポイント

マウスポインタをメニューなどに合わせることです。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。



● ドラッグ

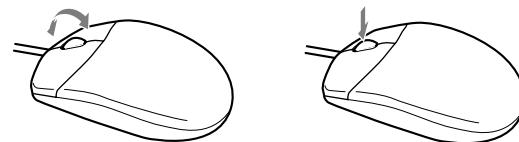
マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。



● スクロール

ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてからスクロールボタンを前後方向に回すと、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

また、第3のボタンとして押して使うこともできます。



POINT

- ▶ 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで変更できます。
- また、「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、マウスポインタやダブルクリック、スクロール速度なども変更できます。
- 「マウスのプロパティ」ウィンドウを表示するには、次のように操作してください。
- ・「コントロールパネル」ウィンドウにある「マウス」アイコンをクリックします。

マウス接続時にフラットポイントを有効にする

本パソコンにマウスを接続すると、自動的にフラットポイントが使えなくなります。USBマウスを接続したときにフラットポイントと併用する場合は、次のように設定してください。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。**
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「マウス」アイコンをクリックします。**
「マウスのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「USB マウス接続時の動作」タブの「USB マウスと同時に使用する」をチェックし、「OK」をクリックします。**

POINT

- ▶ 「マウスのプロパティ」 ウィンドウで、USB マウスを接続したときのフラットポイントの動作を設定するには、「Alps Pointing Device Driver」が必要です。本パソコンにはプレインストールされています。
- ▶ フラットポイントと USB マウスを同時に使用する設定をすると、【Fn】 + 【F4】キーでフラットポイントの有効と無効を切り替えることができます。
キーを押すたびに、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。
 - ・【Fn】 + 【F4】キーを押してフラットポイントを無効にしても、本パソコンの再起動後およびリジューム後は、フラットポイントが有効になります。フラットポイントを無効にする場合は、もう一度【Fn】 + 【F4】キーを押して切り替えてください。
 - ・フラットポイントを常に無効にするには、手順 3 の「USB マウス接続時の動作」タブの「常時タッチパッドを使用しない」をチェックしてください。

3 キーボード

日本語キーボード

キーボードのキーの役割を説明します。

キーは大きく分けると、制御キーと文字キーの2種類があります。

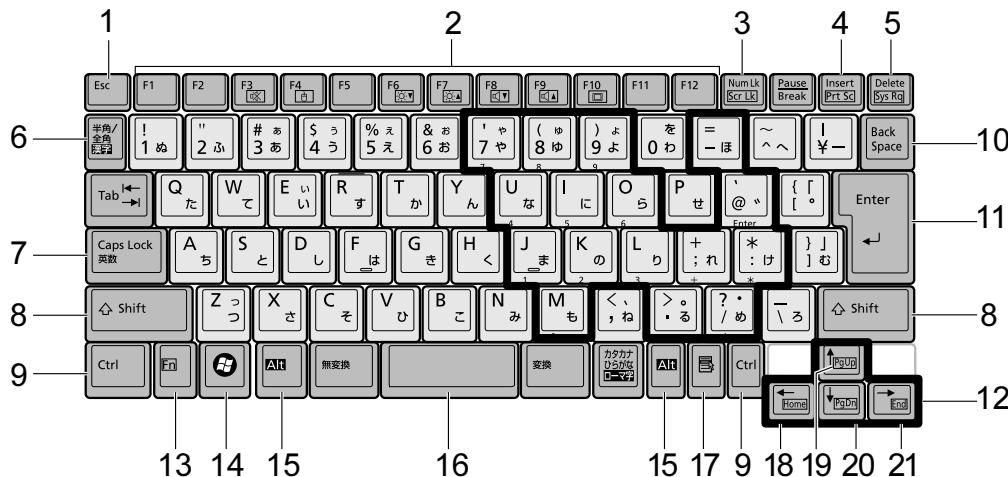
POINT

- ▶ お使いのソフトウェアによっては、キーの役割が変わることがあります。詳しくは、お使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- ▶ キーボードに枠で囲われている刻印は、【Fn】キーと組み合わせて使う機能です。

各番号をクリックすると、説明箇所へジャンプします。

: 制御キー

: 文字キー



■ 主なキーの名称と働き

1 【Esc】キー

ソフトウェアの実行中の操作を取り消します。

2 ファンクションキー（【F1】～【F12】）

【F1】～【F12】までのキーの総称をファンクションキーと呼びます。ソフトウェアごとにいろいろな機能が割り当てられています。

また、【Fn】キーと組み合わせることで、次の働きがあります。

【Fn】+【F3】 スピーカーやヘッドホンのON/OFFを切り替えます。

「キーボードで調節する」(→P.75)

【Fn】+【F4】 フラットポイントの有効と無効を切り替えます(→P.43)。

【Fn】+【F6】 液晶ディスプレイを暗くします。

「液晶ディスプレイの明るさ変更」(→P.59)

- 【Fn】 + 【F7】** 液晶ディスプレイを明るくします。
 「液晶ディスプレイの明るさ変更」(→ P.59)
- 【Fn】 + 【F8】** 音量を小さくします。
 「キーボードで調節する」(→ P.75)
- 【Fn】 + 【F9】** 音量を大きくします。
 「キーボードで調節する」(→ P.75)
- 【Fn】 + 【F10】** 外部ディスプレイ接続時に、液晶ディスプレイのみの表示、外部ディスプレイのみの表示、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。
 「表示装置の切り替え」(→ P.63)

3 【Num Lk】 キー

テンキーモードに切り替えます。再度押すと解除されます。
 「テンキーモード」(→ P.46)

4 【Insert】 キー／【Prt Sc】 キー

- 【Insert】 キー** 入力する文字の挿入／上書きを切り替えます。
- 【Prt Sc】 キー** **【Fn】 キー**を押しながらこのキーを押すと、画面のコピーをクリップボードに取り込みます。
【Fn】 + 【Alt】 キーを押しながらこのキーを押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをとることができます。

5 【Delete】 キー

カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。
【Ctrl】 + 【Alt】 キーを押しながらこのキーを押すと、応答しなくなったソフトウェアを終了させたり、パソコンを強制的に終了させたりすることができます。

6 【半角／全角】 キー

文字の入力時に、半角／全角を切り替えます。

7 【Caps Lock】 キー

【Shift】 キーを押しながらこのキーを押すと、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。
 Caps Lock を ON にすると大文字、OFF にすると小文字を入力することができます。

8 【Shift】 キー

他のキーと組み合わせて使います。

9 【Ctrl】 キー

他のキーと組み合わせて使います。

10 【Back Space】 キー

カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。

11 【Enter】 キー

入力した文字を確定したり、文を改行したり、コマンドを実行したりします。

12 【↑】【↓】【←】【→】 キー

カーソルを移動します。

13 【Fn】キー

他のキーと組み合わせて使います。

【Fn】キーを押しながら枠で囲われている刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用することができます。

14 【】(Windows)キー

「スタート」メニューを表示します。

15 【Alt】キー

他のキーと組み合わせて使います。

16 【Space】キー

空白を入力します（キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです）。

17 【】(アプリケーション)キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。

マウスの右クリックと同じ役割をします。

18 【Home】キー

【Fn】キーを押しながらこのキーを押すと、カーソルを行の最初に移動します。

【Fn】+【Ctrl】キーを押しながらこのキーを押すと、文章の最初に移動します。

19 【Pg Up】キー

【Fn】キーを押しながらこのキーを押すと、前の画面に切り替えます。

20 【Pg Dn】キー

【Fn】キーを押しながらこのキーを押すと、次の画面に切り替えます。

21 【End】キー

【Fn】キーを押しながらこのキーを押すと、カーソルを行の最後に移動します。

【Fn】+【Ctrl】キーを押しながらこのキーを押すと、文章の最後に移動します。

■ テンキーモード

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー（数値入力を容易にするキー配列）として使えるようにすることを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【Num Lk】キーで行い（状態表示 LED の Num Lock ランプが点灯）、キーボードの図の太線で囲まれたキーがテンキーとなります。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

POINT

- ▶ 別売のテンキーボードをパソコン本体に接続して【Num Lk】キーを押すと、テンキーボードのテンキーが有効になり、パソコン本体のテンキーは無効になります。
- ▶ BIOS セットアップの「詳細」-「キーボード／マウス設定」で、「起動時の Numlock 設定」を「オン (Fn キー)」に設定すると、【Fn】キーを押しながらパソコン本体のテンキーが使用できるようになります。

テンキーボード

■ USB テンキーボード

パソコン本体のテンキーモードとは別に、USB テンキーボードを接続してテンキーを使用することができます。

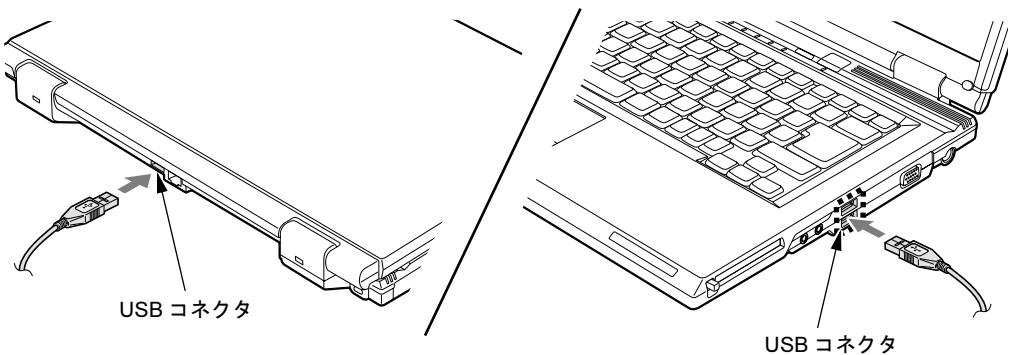
テンキーモードに切り替えるには、USB テンキーボードの【Num Lock】キーを押します。

POINT

- ▶ USB テンキーボードは、パソコン本体の電源を入れてから接続しても、接続してからパソコン本体の電源を入れても、使用することができます。

□ 接続のしかた

USB テンキーボードは、USB コネクタに接続して使用します。



POINT

- ▶ 接続方法については、「マウスの接続のしかた」(→ P.40) をご覧ください。

4 バッテリ

バッテリを充電する

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続すると、充電が始まります。

状態表示 LED のバッテリ充電ランプ (➡ ) が点灯し、内蔵バッテリパックの充電状態が表示されます (→ P.48)。

2 バッテリ充電ランプが緑色点灯に変わったことを確認し、AC アダプタを取り外します。

 **POINT**

- ▶ 充電時間については、「仕様一覧／技術情報」－「本体仕様」(→ P.158) をご覧ください。
- ▶ 本パソコンのご購入時、または 1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリを充電してからお使いください。
- ▶ バッテリの充電は、バッテリ充電ランプが緑色点灯するまで充分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- ▶ バッテリ残量が 90%以上の場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。バッテリ残量が 89%以下になると充電されます。
- ▶ 電源が切れている場合、充電が完了してしばらくすると、状態表示 LED の全表示が消灯します。
- ▶ 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力は低下します。
- ▶ バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働いて充電が行われない場合があります（バッテリ充電ランプがオレンジ点滅します）。しばらくして、バッテリの温度が低下すると充電が開始されます。

■ バッテリの充電状態（バッテリ充電ランプ）

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合、状態表示 LED のバッテリ充電ランプに、内蔵バッテリパックの充電状態が表示されます。

LED 表示	内蔵バッテリパックの充電状態
緑色点灯	充電終了
オレンジ点灯	充電中
オレンジ点滅	充電停止中（バッテリ温度アラーム時など ^注 ）

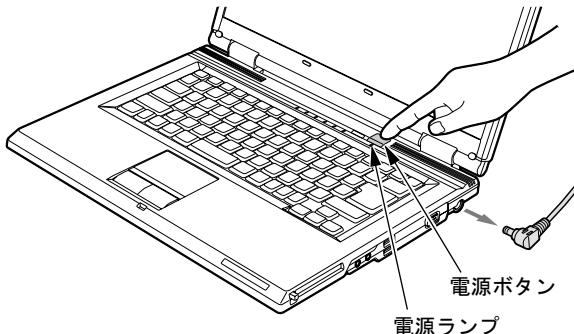
注：バッテリ温度アラームとは、内蔵バッテリパックが熱をもって温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったりした場合に、バッテリの保護機能が働いて充電を停止することです。

 **POINT**

- ▶ バッテリ充電ランプが消灯しているときは、AC アダプタが接続されていません。
- ▶ 内蔵バッテリパックが取り付けられていない場合にも、バッテリ充電ランプが緑色点灯になります。

バッテリで運用する

- 1 ACアダプタを取り外し、電源ボタンを押します。
電源ランプが点灯します。



POINT

- ▶ 周囲の温度が低いと、バッテリ稼働時間が短くなります。
- ▶ バッテリ稼働時間については、「仕様一覧／技術情報」－「本体仕様」(→ P.158)をご覧ください。
- ▶ バッテリを長期間使用すると充電能力が低下するため、バッテリ稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください(→ P.53)。
- ▶ バッテリの温度が上昇すると、本パソコンの動作が遅くなる場合があります。その場合には、ACアダプタを接続してください。

バッテリ残量を確認する

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LED のバッテリ残量ランプで確認できます。

■ バッテリの残量表示（バッテリ残量ランプ）

状態表示 LED	バッテリの状態
緑色点灯／点滅	バッテリ残量 100%～50%
オレンジ点灯／点滅	バッテリ残量 49%～13% 内蔵バッテリパック装着後4秒間、オレンジ点滅している場合は、バッテリ残量計測中
赤色点灯／点滅	バッテリ残量 12%以下 <small>注</small> 早い間隔で赤色点滅している場合は、バッテリが正しく充電されていません
消灯	バッテリ未接続時

注：この状態を LOW バッテリ状態といいます。
「LOW バッテリ状態」（→ P.51）

POINT

- ▶ バッテリ残量ランプは、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により、実際のバッテリ残量とは異なる場合があります。
- ▶ バッテリ残量が 90%以上の場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。バッテリ残量が 89%以下になると充電されます。
- ▶ バッテリ残量ランプは、バッテリ充電中に点灯します。スタンバイ状態で、満充電または ACアダプタが接続されていない場合は、点灯ではなく点滅になります。
- ▶ 電源ON時に早い間隔で赤色点滅する場合は、バッテリが正しく充電できないことを示します。

■ バッテリ温度アラーム（バッテリ充電ランプ）

バッテリ充電ランプのオレンジ点滅は、内蔵バッテリパックが熱をもって温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったりしたときに、バッテリの保護機能が働いて充電を停止していることを表しています。しばらくして内蔵バッテリパックの温度が平常に戻ると、点灯になり充電を再開します。

■ バッテリの異常表示（バッテリ残量ランプ）

バッテリ残量ランプが、早い間隔で赤色点滅する場合は、バッテリが正しく充電できることを示します。

POINT

- ▶ バッテリ残量ランプが早い間隔で赤色点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリを取り外し、もう一度取り付けてください。それでも赤色点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。
内蔵バッテリの交換については、「内蔵バッテリパックを交換する」（→ P.53）をご覧ください。

■ LOW バッテリ状態

バッテリが LOW バッテリ状態になると、状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色点灯／点滅します。すみやかに AC アダプタを接続して、バッテリを充電してください。

POINT

- ▶ Windows の省電力機能で警告音が鳴るように設定することができます。詳しくは、「省電力の設定」(→ P.82)をご覧ください。
ただし、スピーカーを OFF にしていると、警告音が聞こえません。【Fn】+【F3】キーを押して、スピーカーの ON/OFF を切り替えてください。
- ▶ Windows の起動前 (BIOS セットアップなど) では、警告音の設定はできません。
- ▶ LOW バッテリ状態のまま使い続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のソフトウェアを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ▶ LOW バッテリ状態のまま放置すると、自動的にスタンバイします。ただし、データを読み書きしている場合は、その処理が終了するまでスタンバイしません。データを保存する場合は、AC アダプタを接続してください。
- ▶ 本パソコンは、バッテリ残量が約3%になったら、自動的にスタンバイするように設定されています。設定を変更する場合は、次の項目のチェックを外してください。
 - ・「電源オプションのプロパティ」ウインドウの「アラーム」タブの「バッテリ切れアラーム」の「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」ただし、この設定を変更すると、バッテリが切れた時点で電源が切断されます。そのため、保存中や作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になったりすることがあります。

取り扱い上の注意

△警告



- バッテリの交換などで、バッテリパックの取り付け／取り外しを行うときは、落としたり、強い衝撃を与えないでください。また、落としたり、強い衝撃を与えたバッテリパックは使用しないでください。
感電や火災、バッテリパックの破裂の原因となります。
- 分解しないでください
バッテリを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。
- 放電について
 - ・バッテリは、充電後にお使いにならなくても、少しづつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
 - ・長期間（約1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。
- 寿命について
 - ・パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。
 - ・高温環境に放置した場合、バッテリの消耗、劣化が進みます。
 - ・バッテリは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は新しいバッテリと交換してください。
 - ・バッテリの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリの寿命です。
 - ・寿命になったバッテリは、パソコン本体から取り外してください。取り付けたまま放置すると、感電や火災の原因となります。
- 廃棄・リサイクルについて

バッテリを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。なお、取り外したバッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。

また、バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。

バッテリパックのリサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。
- バッテリ稼働時間について
 - ・バッテリ稼働時間を長くするには、省電力機能を利用します。詳しくは、「省電力」（→ P.81）をご覧ください。
 - ・バッテリ稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリ稼働時間が短くなる場合があります。
- 次のような場合はACアダプタを使用してください
 - ・LANを頻繁に使用するとき
 - ・本パソコンをご購入時の状態に戻すとき
 - ・PCカードやUSB機器を2つ以上同時に取り付ける場合
- 次のような場合はバッテリ残量に注意して使用してください
 - ・無線LANなどのワイヤレス機器を使用するとき
 - ・BIOSセットアップを操作するとき

内蔵バッテリパックを交換する

内蔵バッテリパックの交換は、ソフトウェアを正しく終了させてから行います。

⚠ 警告



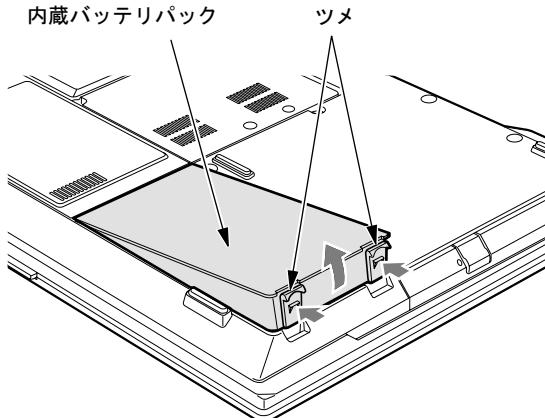
- バッテリパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

POINT

- ▶ 新しい内蔵バッテリパックは、次の製品をご購入ください。
 - 商品名 : Li-ion バッテリパック FM-62 (標準)
 - 商品番号 : 0644560
 - 商品名 : Li-ion バッテリパック FM-63 (大容量)
 - 商品番号 : 0644570
- 内蔵バッテリパックは、富士通サプライ品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

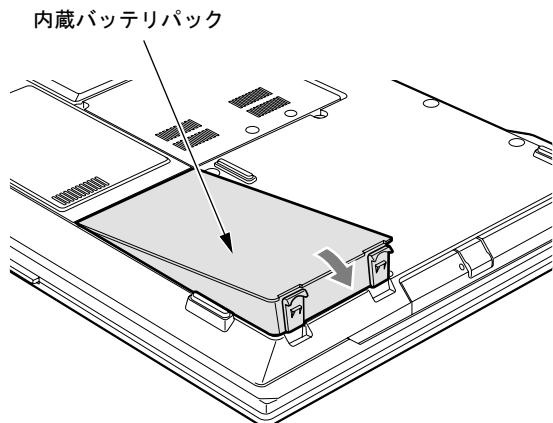
- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。
- 2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3 内蔵バッテリパックを取り外します。

バッテリのツメ（2ヶ所）を押しながら、内蔵バッテリパックを取り外します。



4 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

新しい内蔵バッテリパックを斜め上から差し込み、パソコン本体の突起と内蔵バッテリパックのスリットをあわせ、カチッと音がするまでしっかりとはめこみます。



重要

- 取り外した内蔵バッテリパックは、ショート（短絡）防止のために、内蔵バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。取り外した内蔵バッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。
- 内蔵バッテリパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。リサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

5 PC カードスロット

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

POINT

- ▶ 本パソコンでは、LAN カードが使えない場合があります。
- ▶ 本パソコンでは、3.3V または 5V を使用する PC カードのみサポートしています。12V を使用する PC カードはサポートしていません。

3

PC カードをセットする

△ 注意



- PC カードをセットまたは取り出すときは、PC カードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

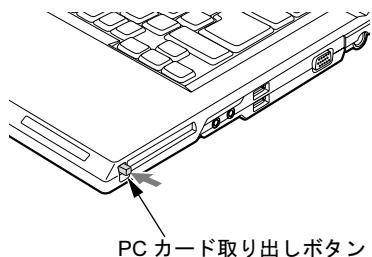
★ 重要

- ▶ PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

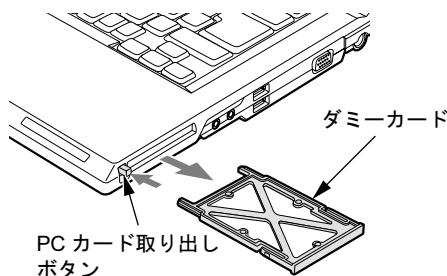
POINT

- ▶ PC カードによっては、パソコン本体の電源を切ってからセットするものがあります。詳しくは、お使いの PC カードのマニュアルをご覧ください。
- ▶ PC カードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いの PC カードのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。
- ▶ PC カードや USB 機器を 2 つ以上同時に取り付ける場合には、AC アダプタを接続してください。バッテリで稼働すると、バッテリが劣化します。

- 1** パソコン本体右側面の PC カードスロット取り出しボタンを軽く一回押すと、ボタンが少し飛び出します。



- 2** PC カードスロット取り出しボタンを押し、ダミーカードを取り出します。

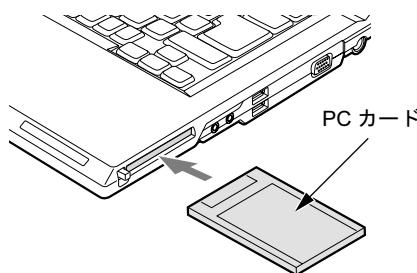


POINT

- ▶ 取り出したダミーカードは、なくさないように保管してください。

- 3** PC カードスロットに、PC カードをセットします。

PC カードの製品名を上にして、PC カードスロットにしっかりと差し込みます。



重要

- ▶ PC カード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず中に押し込んでください。PC カード取り出しボタンが飛び出した状態で PC カードをセットすると、ボタンが中に入らなくなり、破損する原因となります。
- ▶ PC カードによっては、PC カードスロットから飛び出した状態でセットされるものがあります。PC カードの飛び出した部分をぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
- ▶ うまくセットできない場合は、一度 PC カードを取り出し、上下が反対になっていないか、差し込む方向が間違っていないかを再度確認してください。また、お使いになる PC カードのマニュアルもご覧ください。
- ▶ コードやケーブルを接続して使う PC カードをお使いの場合、PC カードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分に物を載せたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

PC カードを取り出す

⚠ 注意



- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっていることがあります。PC カードを取り出すときは、手順 3 の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。
- PC カードをセットまたは取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



👉 重要

- ▶ PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

🔍 POINT

- ▶ コードやケーブルを接続して使う PC カードを取り出す場合、PC カードのコードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ PC カードは、次の手順に従って取り出してください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ▶ PC カードによっては、パソコン本体の電源を切ってから取り出すものがあります。詳しくは、お使いの PC カードのマニュアルをご覧ください。

1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

🔍 POINT

- ▶ 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。
- ▶ PC カードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものがあります。アイコンが表示されない場合には、PC カードのマニュアルをご覧ください。

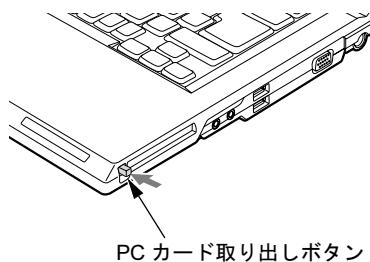
2 「[PC カード] を安全に取り外します」をクリックします。

🔍 POINT

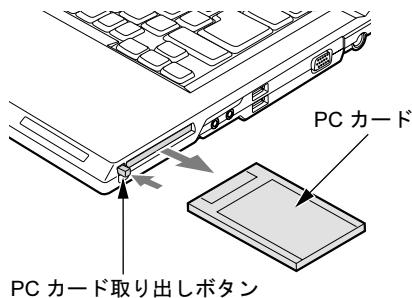
- ▶ 「[PC カード]」には、お使いの PC カードの名称が表示されます。
- ▶ 次の場合は、「OK」をクリックし、PC カードにアクセスしていないことを確認した後、手順 1 からやり直してください。
 - ・「デバイス' 汎用ボリューム' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

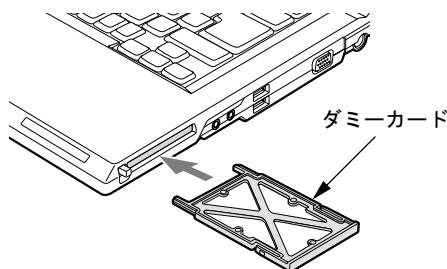
- 4 PC カード取り出しボタンを軽く一回押すと、ボタンが少し飛び出します。



- 5 飛び出した PC カード取り出しボタンを押し、PC カードを取り出します。



- 6 ダミーカードを PC カードスロットにしっかりと差し込みます。



重要

- ▶ PC カード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず中に押し込んでください。PC カード取り出しボタンが飛び出した状態でお使いになると、ボタンが破損する原因となります。

6 ディスプレイ

液晶ディスプレイの明るさ変更

ここでは、液晶ディスプレイの明るさを変更する方法を説明しています。

本パソコンは、ACアダプタを使っているときと、バッテリで使っているときの液晶ディスプレイの明るさをそれぞれ設定できます。

ご購入時には、ACアダプタで使っているときに明るくなり、バッテリで使っているときには暗くなるように設定されています。液晶ディスプレイの明るさは、お使いの環境に合わせて変更してください。

液晶ディスプレイの明るさは、キーボードを使って変更できます。暗くすると、消費電力が小さくなります。

※ 重要

- 外部ディスプレイの明るさの変更方法については、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

□ 明るさを変更する

キーボードで液晶ディスプレイの明るさを8段階に変更できます。

【Fn】+【F6】キーを押すと暗く、【Fn】+【F7】キーを押すと明るくなります。

POINT

- 次のような場合は、キーボードで明るさを変えられないことがあります。しばらくしてから変更してください。
 - 本パソコンを再起動した直後
 - スタンバイからレジュームした直後
 - ACアダプタを取り付けたり、取り外したりした直後

解像度と発色数

ここでは、本パソコンの液晶ディスプレイの解像度や発色数について説明しています。発色数は「中」が6万5千色、「最高」が1677万色です。

■ 表示できる解像度と発色数

解像度（ピクセル）	発色数	Windows XP Embedded
800 × 600	中（16ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32ビット） ^{注1}	
1024 × 768	中（16ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32ビット） ^{注1}	
1280 × 768	中（16ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32ビット） ^{注1}	
1280 × 800	中（16ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32ビット） ^{注1}	
1280 × 1024	中（16ビット）	<input type="radio"/> 注2
	最高（32ビット） ^{注1}	
1400 × 1050	中（16ビット）	<input type="radio"/> 注2
	最高（32ビット） ^{注1}	
1600 × 1200	中（16ビット）	<input type="radio"/> 注2
	最高（32ビット） ^{注1}	

注1：液晶ディスプレイは、擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注2：液晶ディスプレイは、仮想デスクトップになります。

仮想デスクトップでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

■ 注意事項

- 通常は640×480の解像度は選択できませんが、一部のゲームやソフトウェアでは使用されることもあります。
- 液晶ディスプレイの解像度以上に解像度を設定する場合、あらかじめ次のように設定してください。なお、画面は仮想デスクトップに表示されます。
 - 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 - 「画面」をダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 - 「設定」タブで「詳細設定」をクリックします。
 - 「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックが外れていることを確認します。

POINT

- 「このモニタでは表示できないモードを隠す」の項目が選択できない場合は、この設定は必要ありません。

- 解像度を1280×768に設定すると、Windowsの画面の通常表示と全画面表示を切り替えることができます。
- 外部ディスプレイとしてCRTディスプレイを接続した場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウでリフレッシュレートを85Hz以上に設定できるように見えますが、実際のCRTディスプレイの走査周波数は「外部ディスプレイの走査周波数」(→P.73)の表以外の周波数を使用することはできません。
- 解像度を切り替えるときに、一時的に表示画面が乱れることがあります、故障ではありません。
- 画面の解像度や色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず本パソコンを再起動してください。

■ 解像度や発色数を変更する

ここでは、本パソコンの液晶ディスプレイの解像度や発色数を変更する方法について説明しています。

重要

- ▶ 解像度や発色数を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがあります、故障ではありません。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「画面」をダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 解像度や発色数を変更します。
- 5 「適用」をクリックします。

POINT

- ▶ 「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示された場合は、15秒以内に「はい」をクリックしてください。

- 6 「OK」をクリックします。

全画面表示と通常表示の切り替え

画面の解像度をご購入時の設定より低く設定すると、ディスプレイ全体に拡大して表示する全画面表示と、ディスプレイ中央に表示する通常表示を切り替えることができます。

■ 注意事項

- Windows の画面の通常表示と全画面表示を切り替えることができます。
 - ・解像度を 1280 × 768 以下に設定した場合

POINT

- ▶ コマンドプロンプトの全画面表示は、プライマリのみに表示されます。

■ 切り替え方法

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「Intel(R) GMA Driver for Mobile」をダブルクリックします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 3 左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。
- 4 「アスペクト比のオプション」クリックし、お使いになる設定を選択します。
 - アスペクト比を保持
デスクトップがアスペクト比（縦横比）を維持したまま最大拡張されます。
 - 全画面表示（枠なし）
デスクトップが画面全体に拡張されます。
 - デスクトップの中央
デスクトップが通常表示になります。

POINT

- ▶ 「デスクトップの中央」は、液晶ディスプレイの場合のみ選択できます。

- 5 「適用」をクリックします。

POINT

- ▶ 「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示された場合は、15秒以内に「OK」をクリックしてください。

- 6 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ デスクトップの解像度をご購入時の解像度よりも小さい値に設定した場合、2種類の画面拡張設定が選択できます。
 - ・画面全体に拡張
画面全体が縦長に表示されます。
 - ・アスペクト比を維持したまま拡張
縦長にはなりませんが、画面の上下に黒いスペースができます。

表示装置の切り替え

本パソコンに接続した外部ディスプレイに画面を表示する方法と、2つのディスプレイに同時に表示する方法を説明します。なお、外部ディスプレイをあらかじめ取り付けてから切り替えてください。

■ ディスプレイの表示

表示可能なディスプレイの組み合わせは次のようにになります。

□ 1台のディスプレイで表示する場合

- 液晶ディスプレイ
- アナログディスプレイ

□ 2台のディスプレイで表示する場合

- 液晶ディスプレイ+アナログディスプレイ

■ 外部ディスプレイを接続する

ここでは、パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、アナログディスプレイを接続する場合について説明します。

⚠ 警告



- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。また、外部ディスプレイの電源も切り、電源ケーブルを取り外してください。
感電の原因となります。

⚠ 注意



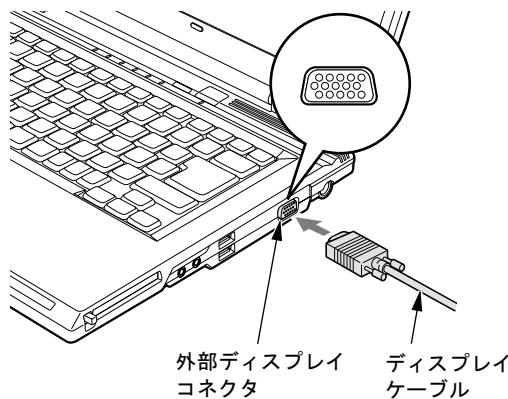
- ケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します(→『取扱説明書』)。

2 パソコン本体右側面の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは正面から見ると台形になっています。

コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込みます。



3 アナログディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。

接続方法は、アナログディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 アナログディスプレイの電源ケーブルを接続して、ディスプレイの電源を入れます。

5 パソコン本体にACアダプタを取り付け、パソコン本体の電源を入れます。

POINT

- ▶ アナログディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになることがあります。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイとアナログディスプレイで同時に表示される。
 - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される。
 - この場合は、画面の指示に従ってアナログディスプレイのドライバをインストールしてください。
- ▶ アナログディスプレイなど磁界を発生する機器とFDDユニットは離して使用してください。

■ 表示できる解像度と発色数

□ 外部ディスプレイ

解像度（ピクセル） ^注	発色数	Windows XP Embedded
800 × 600	中（16 ビット）	○
	最高（32 ビット）	
1024 × 768	中（16 ビット）	○
	最高（32 ビット）	
1280 × 768	中（16 ビット）	○
	最高（32 ビット）	
1280 × 1024	中（16 ビット）	○
	最高（32 ビット）	
1360 × 768	中（16 ビット）	○
	最高（32 ビット）	
1440 × 900	中（16 ビット）	○
	最高（32 ビット）	
1600 × 1200	中（16 ビット）	○
	最高（32 ビット）	
1920 × 1200	中（16 ビット）	○
	最高（32 ビット）	

注：各解像度は、お使いの外部ディスプレイがサポートしている場合にお使いになれます。外部ディスプレイがサポートしていない解像度は使用することができません。

□ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示

解像度（ピクセル）注1	発色数	Windows XP Embedded
800 × 600	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）注2	
1024 × 768	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）注2	
1280 × 768	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）注2	
1280 × 1024	中（16 ビット）	<input type="radio"/> 注3
	最高（32 ビット）注2	
1360 × 768	中（16 ビット）	<input type="radio"/> 注3
	最高（32 ビット）注2	
1440 × 900	中（16 ビット）	<input type="radio"/> 注3
	最高（32 ビット）注2	
1600 × 1200	中（16 ビット）	<input type="radio"/> 注3
	最高（32 ビット）注2	
1920 × 1200	中（16 ビット）	<input type="radio"/> 注3
	最高（32 ビット）注2	

注1：外部ディスプレイの各解像度は、お使いの外部ディスプレイがサポートしている場合にお使いになれます。外部ディスプレイがサポートしていない解像度は使用することができません。

注2：液晶ディスプレイは、擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注3：液晶ディスプレイは、仮想デスクトップになります。

仮想デスクトップでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

■ 注意事項

- 表示装置の切り替えの設定は次のようにになります。
 - ・ Windows が起動するまでの間は、BIOS セットアップの設定が有効です。
 - ・ Windows 起動中は「画面のプロパティ」ウィンドウの設定が有効（Windows を再起動後も有効）です。
 - ・ Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態に戻ります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。
 - ・ 外部ディスプレイを接続して、初めて電源を入れたときは、同時表示の状態に切り替わる場合があります。
- 解像度の切り替え時などに、一時的に表示画面が乱れることがあります、故障ではありません。
- 外部ディスプレイまたは液晶プロジェクタによっては、液晶ディスプレイ+外部ディスプレイの同時表示時に、画面が正しく表示されないことがあります。
- 外部ディスプレイで液晶ディスプレイ以上の高解像度を利用するには、それらの解像度を表示可能な外部ディスプレイが必要です。

- 液晶プロジェクタを本パソコンの液晶ディスプレイと同時表示で使用する場合、VESA で標準化された DDC の規格を満たしていて、かつ本パソコンの液晶ディスプレイと同じ解像度を表示可能な液晶プロジェクタが必要です。本規格を正しく満たしているかどうかに関しては、それぞれの液晶プロジェクタのメーカーにご確認ください。これはプラグアンドプレイを実現するために外部ディスプレイの情報をパソコン本体に伝送できるようにするための規格であり、これを満たしていない液晶プロジェクタには表示することはできません。
- BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。外部ディスプレイにも BIOS セットアップの画面を表示させる場合には、BIOS セットアップの「詳細」－「ディスプレイ設定」を「外部ディスプレイ」に設定してください。詳しくは、「BIOS」－「メニュー詳細」(→ P.108) をご覧ください。
- 液晶ディスプレイ+外部ディスプレイの同時表示を選択した場合、外部ディスプレイ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。
- 外部ディスプレイとして CRT ディスプレイを接続した場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウでリフレッシュレートを 85Hz 以上に設定できるよう見えますが、実際の CRT ディスプレイの走査周波数は各機種の「外部ディスプレイの走査周波数」(→ P.73) の表以外の周波数を使用することはできません。
- 画面の解像度や発色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず本パソコンを再起動してください。

POINT

- ▶ 外部ディスプレイを接続した状態で、コマンドプロンプトをウィンドウ表示から全画面表示に切り替えると、ディスプレイが切り替わることがあります。また、コマンドプロンプトを終了したときやウィンドウ表示に切り替えたときに、ディスプレイが切り替わることがあります。この現象はドライバおよび Windows での制限（仕様）です。あらかじめご了承ください。

■ Windows の操作で切り替える

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「Intel(R) GMA Driver for Mobile」をダブルクリックします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 3 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 4 次の操作を行います。
 - 1台のディスプレイに表示する場合
「シングルディスプレイ」の一覧から、表示するディスプレイをクリックして、チェックを付けます。
 - 同時表示の場合
「マルチディスプレイ」の「Intel(R)デュアル・ディスプレイ・クローン」をクリックして、チェックを付けます。

POINT

- ▶ 同時表示の場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
 - ・ プライマリ：ノートブック
 - ・ セカンダリ：PC モニタ

- ▶ 「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

5 「適用」をクリックします。

POINT

- ▶ 「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示された場合は、15秒以内に「OK」をクリックしてください。

6 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、外部ディスプレイ表示に切り替えたときに何も表示されない、または正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行うようにしてください。

- ・何も表示されない場合

何も操作しないでお待ちください。15秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、【Fn】キーを押しながら【F10】キーを押して、表示先を切り替えてください。

- ・正常に表示されない場合

外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、次の方法で設定を変更してください。

1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「画面」をダブルクリックします。
2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
3. 「モニタ」タブをクリックします。
4. 「モニタの設定」のリフレッシュレートを外部ディスプレイでサポートする走査周波数に設定します。
5. 「OK」をクリックします。

- ▶ 別の外部ディスプレイに変更する場合は、変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、パソコンの電源を切った後、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更したときに、画面が表示できなくなる場合があります。

■ キーボードで切り替える場合

表示するディスプレイを切り替えるには、【Fn】+【F10】キーを押します。ディスプレイは次の順に切り替わります。このとき【F10】キーを、間隔をあけて押してください。

液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→液晶ディスプレイ+外部ディスプレイ（同時表示）
→液晶ディスプレイ…

POINT

- ▶ キーを押してもディスプレイが切り替わらない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えてください。
- ▶ コマンドプロンプトを全画面表示にしている場合は、【Fn】+【F10】キーを使用してディスプレイを切り替えることができません。一度、ウィンドウ表示に切り替えてからディスプレイを切り替えてください。

マルチモニタ機能

本パソコンには、2台のディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで、1つのデスクトップを表示できます。ここではプライマリアダプタ（メイン画面）として液晶ディスプレイを、セカンドアリアアダプタ（サブ画面）として外部ディスプレイを使用する場合の手順を説明します。

重要

- ▶ マルチモニタ機能をお使いになる前に、必ず外部ディスプレイを接続してください。
- ▶ マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- ▶ マルチモニタ機能をお使いになるときは液晶ディスプレイを「プライマリ」、外部ディスプレイを「セカンダリ」に設定してください。
- ▶ マルチモニタ機能の注意
 - ・2台のディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプタとセカンドアリアアダプタの設定を変更しないでください。
 - ・セカンドアリアアダプタのみに表示されているソフトウェアを起動中に、セカンドアリアアダプタの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよび Windows の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
 - ・次の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
 - 液晶ディスプレイの全画面表示
 - コマンドプロンプトの全画面表示
 - 一部のスクリーンセーバー
 - 動画再生画面の全画面表示
 - アクセラレータ機能を使用しての動画再生画面
- ▶ 発色数についての注意
 - ・プライマリアダプタとセカンドアリアアダプタで、別々の発色数を設定しないでください。
 - ・「中」または「最高」に設定してください。

POINT

- ▶ マルチモニタ使用時は、キーボードによるディスプレイの切り替えは無効となります。

■ 外部ディスプレイを接続する

ここでは、パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、アナログディスプレイを接続する場合について説明します。

警告



- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。また、外部ディスプレイの電源も切り、電源ケーブルを取り外してください。
感電の原因となります。

注意



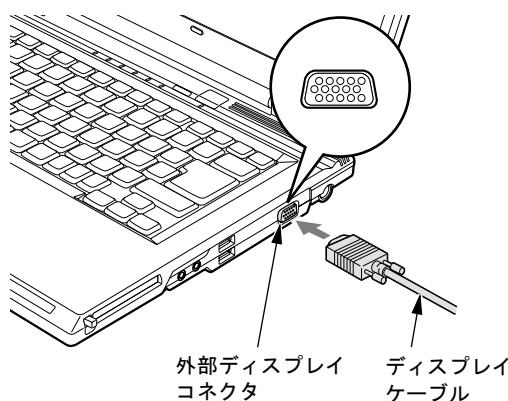
- ケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します(→『取扱説明書』)。

2 パソコン本体右側面の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは正面から見ると台形になっています。

コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込みます。



3 アナログディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。

接続方法は、アナログディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 アナログディスプレイの電源ケーブルを接続して、ディスプレイの電源を入れます。

5 パソコン本体にACアダプタを取り付け、パソコン本体の電源を入れます。

POINT

- ▶ アナログディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようにになります。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイとアナログディスプレイで同時に表示される。
 - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される。
 - この場合は、画面の指示に従ってアナログディスプレイのドライバをインストールしてください。
- ▶ アナログディスプレイなど磁界を発生する機器とFDDユニットは離して使用してください。

■ 表示できる解像度と発色数

次の表の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

発色数	プライマリの 解像度	セカンダリの解像度 ^{注1}				
		800 × 600	1024 × 768	1280 × 768	1280 × 1024	1360 × 768
中 (16 ビット) 最高(32 ビット) ^{注2}	800 × 600	○	○	○	○	○
	1024 × 768	○	○	○	○	○
	1280 × 768	○	○	○	○	○
	1280 × 800	○	○	○	○	○
	1280 × 1024 ^{注3}	○	○	○	○	○
	1400 × 1050 ^{注3}	○	○	○	○	○
	1600 × 1200 ^{注3}	○	○	○	○	○

発色数	プライマリの 解像度	セカンダリの解像度 ^{注1}		
		1440 × 900	1600 × 1200	1920 × 1200
中 (16 ビット) 最高(32 ビット) ^{注2}	800 × 600	○	○	○
	1024 × 768	○	○	○
	1280 × 768	○	○	○
	1280 × 800	○	○	○
	1280 × 1024 ^{注3}	○	○	○
	1400 × 1050 ^{注3}	○	○	○
	1600 × 1200 ^{注3}	○	○	○

注1:各解像度は、お使いの外部ディスプレイがサポートしている場合にお使いになれます。外部ディスプレイがサポートしていない解像度は使用することができません。

注2:液晶ディスプレイは、擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注3:液晶ディスプレイは仮想デスクトップになります。

液晶ディスプレイにはディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

■ 注意事項

□ 共通の注意事項

- マルチモニタ機能使用時に本パソコンを再起動した場合、使用している外部ディスプレイによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このような場合には、リフレッシュレートを 85Hz 以下に設定してください。
- マルチモニタ機能使用時には、【Fn】 + 【F10】キーを使用して、ディスプレイを切り替えることはできません。

■ マルチモニタの設定

- 1** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2** 「Intel(R) GMA Driver for Mobile」をダブルクリックします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 3** 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 4** 「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をクリックして、チェックを付けます。

POINT

- ▶ マルチモニタ表示の場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
 - ・プライマリ：ノートブック
 - ・セカンダリ：PC モニタ
- ▶ 「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

- 5** 「適用」をクリックします。

POINT

- ▶ 「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示された場合は、15秒以内に「OK」をクリックしてください。

- 6** 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

■ アダプタの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2** 「画面」をダブルクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3** 「設定」タブをクリックします。
- 4** モニタアイコンを、表示する位置にドラッグします。
- 5** 「OK」をクリックします。

外部ディスプレイの走査周波数

ここでは、外部ディスプレイの走査周波数について説明します。

パソコン本体に外部ディスプレイを接続した場合に、パソコン側でディスプレイドライバの走査周波数を設定することができます。走査周波数が高いほど、解像度や同時発色数を上げることができます。画面のちらつきを減らすことができます。

ディスプレイドライバにより、次の表に示されている走査周波数を選択することができます。

選択できる走査周波数は、外部ディスプレイ表示のみの場合も同時表示の場合も同じです。

ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

解像度	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
800 × 600	37.9	60
	48.1	72
	46.9	75
	53.7	85
1024 × 768	48.4	60
	56.5	70
	60	75
	68.7	85
1280 × 768	47.8	60
	60.3	75
	68.6	85
1280 × 1024	64	60
	80	75
	91.1	85
1360 × 768	47.7	60
1400 × 1050	65.3	60
	82.3	75
	85	85
1440 × 900	55.9	60
1600 × 1200	75	60
	93.8	75
	106.3	85
1680 × 1050	64.7	60
1920 × 1200	74	60

POINT

▶ お使いになる外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイ表示に切り替えた場合、画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、「リフレッシュレート」の設定値を変更してから外部ディスプレイ表示に切り替えてください。

「リフレッシュレート」とは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数（単位は Hz）で表したもので、垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります（お使いの外部ディスプレイによって値の上限は決まっています）。

- ▶ リフレッシュレートの変更は、次のように設定してください。
 1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「画面」をダブルクリックします。
 2. 「設定」タブをクリックし、ディスプレイリストからリフレッシュレートを変更するモニタアイコンを選択します。(マルチモニタ機能の使用時は、プライマリに設定したモニタのリフレッシュレートを変更したい場合は「1」を、セカンダリに設定したモニタのリフレッシュレートを変更したい場合は「2」を選択します。)
 3. 「詳細設定」をクリックします。
お使いのディスプレイドライバのウィンドウが表示されます。
 4. 「モニタ」タブをクリックします。
 5. 「画面のリフレッシュレート」から、設定したいリフレッシュレートを選択します。
 6. 「適用」をクリックします。
 7. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

7 音量

スピーカーやヘッドホンの音量は、キーボード、または画面の音量つまみで調節します。

また、音声入出力時のバランスや音量の設定は、音量を設定するウィンドウで行います。

重要

- ▶ スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。

キーボードで調節する

3

キーボードで音量を調節するには、【Fn】 + 【F8】キーまたは【F9】キーを押します。

【Fn】 + 【F8】キーを押すと音量が小さく、【Fn】 + 【F9】キーを押すと音量が大きくなります。音量を消したい場合は、【Fn】 + 【F3】キーを押します。

画面右下の通知領域のアイコンが変わります。

画面上の音量つまみで設定する

1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをクリックします。

音量を調節する画面が表示されます。

POINT

- ▶ 通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 2. 「サウンドとオーディオデバイス」をダブルクリックします。
 3. 「音量」タブをクリックします。
 4. 「デバイスの音量」の「タスクバーに音量アイコンを配置する」のチェックを付けます。
 5. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。

「ミュート」をチェックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。

POINT

- ▶ 音量つまみを表示しているとき、キーボードで音量を調節すると、音量つまみも動きます。

3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量を調節する画面が消えます。

消えなかつた場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

再生時／録音時の音量設定

「マスタ音量」 ウィンドウで再生時や録音時の音量設定ができます。

■ 再生時の音量を調節する

- 1** 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。
「マスタ音量」 ウィンドウが表示されます。
- 2** バランスや音量などを調節します。
- 3** ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

■ 録音時の音量を調節する

- 1** 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。
「マスタ音量」 ウィンドウが表示されます。
- 2** 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
「プロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3** 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio Input」を選択します。
- 4** 「OK」をクリックします。
「録音コントロール」 ウィンドウが表示されます。
- 5** バランスや音量などを調節します。
- 6** ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

■ ご購入時の音量設定

ご購入時の音量設定は、次のようになっています。

□ 再生時の音量設定

ー：ご購入時の設定はミュートではありません

項目	ご購入時の表示状態	ご購入時の設定	設定する音量
Master Volume	表示	—	内蔵スピーカー、ヘッドホン端子の再生音量
Wave	表示	—	Wave 音源の再生音量
SW Synth	非表示	—	(本パソコンでは使用できません)
CD Player	非表示	—	(本パソコンでは使用できません)
PC Beep	非表示	—	(本パソコンでは使用できません)

□ 録音時の音量設定

項目	ご購入時の表示状態	設定する音量
Microphone	表示	マイク端子の録音音量
Stereo Mix	表示	再生音全体の録音音量

POINT

- ▶ 表示されていない項目を表示させる場合は、次のように設定します。
 1. 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
 2. 「ミキサーデバイス」から次を選択します。
「Realtek HD Audio output」または「Realtek HD Audio Input」
 3. 「表示するコントロール」で、項目をクリックしてチェックします。
項目が表示されるようになります。

8 通信

重要

- ▶ 通信機能をお使いになる場合は、ウイルスや不正アクセスからパソコンを守るため、セキュリティ対策を実行してください (→ P.15)。

LAN (有線 LAN)

LAN の設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ LAN ケーブルを接続する

本パソコンには、下記に対応した LAN が搭載されています。

- 10BASE-T (IEEE 802.3 準拠)
- 100BASE-TX (IEEE 802.3u 準拠)
- 1000BASE-T (IEEE 802.3ab 準拠)

警告



- 雷が鳴り出したら、パソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。また、雷が鳴り出しそうなときは、AC アダプタやケーブル類を取り外し、雷が止むまで取り付けないでください。

感電・火災の原因となります。またパソコンが故障するおそれがあります。

注意



- LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。
- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違うと故障の原因となることがあります。

POINT

- ▶ 1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリ 5 (カテゴリ 5E) 以上の LAN ケーブルを使用してください。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します (→ 『取扱説明書』)。

2 パソコン本体の LAN コネクタに LAN ケーブルを接続します。

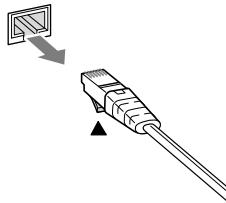
コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。LAN コネクタについては、「各部名称」 – 「各部の名称と働き」 (→ P.20) をご覧ください。

◀ 重要

- ▶ ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします。設定の変更方法は、「省電力」(→ P.81)をご覧ください。
省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。また、お使いになるソフトウェアによっては、不具合が発生する場合があります。
- ▶ ネットワークに接続する場合は、AC アダプタを接続したうえでのご使用をお勧めします。

POINT

- ▶ LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。



3

無線 LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠)

対象機種 カスタムメイドの選択により、無線 LAN 搭載の場合

無線 LAN を使うと、LAN ケーブルを使わずにネットワークに接続することができます。本パソコンに搭載されている無線 LAN は、IEEE 802.11a (J52/W52/W53/W56)、IEEE 802.11b および IEEE 802.11g に準拠しており、IEEE 802.11a (J52/W52/W53/W56)、IEEE 802.11b および IEEE 802.11g に準拠した無線 LAN 機器と接続することができます。

無線 LAN については、『IEEE 802.11a/g 準拠 内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。設定する場合は、ネットワーク管理者に確認のうえ、実行してください。

◀ 重要

- ▶ 本パソコンでは、次の制限がありますのでご注意ください。
 - ・ Windows XP Embedded のワイヤレスネットワーク機能 (Wireless Zero Configuration) を使用した場合、WPA2/WPA2-PSK は、ご使用になれません。
 - ・ ブリッジ接続は、ご使用になれません。
 - ・ 休止状態は、ご使用になれません。
 - ・ 「ドライバースディスク」は、添付されておりません。
- 再インストールを行う場合は、パソコン管理者にご相談ください。

■ 通信を行うための注意

本パソコンの無線 LAN を使って通信するときの注意事項について説明します。

- 電波法の定めにより W56 のチャンネルは屋外でご利用になれますが、J52、W52、W53 のチャンネルは屋外ではご利用になれません。本パソコンでは特定のチャンネルの電波の発信を停止することはできないため、内蔵の無線 LAN を IEEE802.11a (5GHz 帯) でご利用になる場合、屋外ではご利用になれません。本パソコンを屋外でご利用になる場合は、5GHz 帯の電波を停止してください。

- 最大で 54Mbps 無線 LAN に対応しています。
表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠 (J52/W52/W53/W56) (5GHz 帯) では見通し半径 15m 以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠 (2.4GHz 帯) では見通し半径 25m 以内となります。ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造や材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、または電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もあります。
- IEEE 802.11a 準拠の W53 (52 ~ 64ch)、W56 (100 ~ 140ch) では、無線 LAN アクセスポイントの DFS 機能が作動した場合、W53/W56 の通信はいったん切断されます。DFS 機能により、その無線 LAN アクセスポイントが再起動した場合は、W53/W56 以外のすべての通信もいったん切断されます。
- 本パソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。内蔵無線 LAN アンテナについては、「各部名称」 - 「各部の名称と働き」 (→ P.20) をご覧ください。
また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下することがあります。
- 本パソコンに搭載されている無線 LAN は、無線 LAN 製品の相互接続性を検証する「Wi-Fi Alliance®」が定義する、無線 LAN 標準の「Wi-Fi®」に準拠しています。
- 本パソコンに搭載されている IEEE 802.11b、IEEE 802.11g 準拠の無線 LAN は、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯 (2.4GHz) を使用するため、パソコン本体の近辺で Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。この場合、次のように対策してください。
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
 - ・ 10m 以内で使用する場合は、パソコン本体または Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の一方の電源を切る。
- LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイ状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。
なお、本パソコンを使用していない場合は、電源を切ってください。
- 有線 LAN と無線 LAN で、TCP/IP の設定などが競合しないように注意してください。
- 本パソコンをバッテリで運用中に無線 LAN を使用する場合は、バッテリ残量に注意してください。

9 省電力

ご購入時には、一定時間パソコン本体を操作しないと自動的にディスプレイの表示を消したり、スタンバイしたりするよう設定されています。

スタンバイ

スタンバイを使用すると、Windows を終了しないで節電することができます。

● スタンバイ

メモリ内のプログラムやデータを、システムRAM（メモリ）に保持してパソコン本体の動作を中断させます。スタンバイ中は、電源ランプが点滅します。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は、ACアダプタを接続している場合はAC電源から、接続していない場合はバッテリから供給されます。

POINT

▶ スタンバイから動作、作業状態に回復することをレジュームといいます。

注意事項

■ 共通の注意事項

- ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします（→ P.82）。省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。
- 本パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイ、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイした後、すぐにレジュームしないでください。必ず 10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイ状態にならないことがあります。
- レジューム時に、画面に一瞬ノイズが発生する場合があります。
- 次の場合は、スタンバイにしないでください。
 - ・ Windows の起動処理中または終了処理中
 - ・ パソコン本体が何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
 - ・ ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
 - ・ 内蔵フラッシュメモリアクセランプが点灯中
 - ・ ネットワークで通信中

- 周辺機器の取り付け／取り外しをする前に、パソコン本体の電源を切ってください。省電力に移行した状態では行わないでください。また、周辺機器によっては、パソコン本体の電源を切らなくても接続できるものもあります。
- 「取り扱い」(→P.31)、または周辺機器に添付されているマニュアルをご覧ください。
- ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム (Wake up on LAN) を設定すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイ中のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウを表示します (→P.82)。
 3. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」を「20 分後」以上に設定します。
 4. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ 設定値が 20 分より短いと、本パソコンがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。

■ スタンバイ時の注意事項

- バッテリを使っているときのスタンバイ可能な時間は、新品のバッテリを満充電した状態では、約 1 日です。
- スタンバイ時にはシステム RAM(メモリ)でのデータ保持のために電力を消費します。バッテリ運用の場合は、バッテリ残量に留意してください。スタンバイ中にバッテリが切れると、作業中のデータがすべて失われてしまいます。長時間お使いにならない場合は、データを保存してから Windows を終了させ、パソコン本体の電源を切ってください。
- お使いになる PC カードによっては、バッテリ運用時のスタンバイ可能な時間が短くなる場合があります。

省電力の設定

■ 「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウの表示

本パソコンの電源を管理することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「電源オプション」をダブルクリックします。
 「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
 この後は、「設定を変更する」(→P.83) をご覧になり設定してください。
 設定を変更した後は、「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

■ 設定を変更する

お使いの状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。

重要

- ▶ ネットワークをお使いになるときは、次の設定を行い、省電力機能が働かないようにすることをお勧めします。
省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。
「電源設定」タブの「システムスタンバイ」を「なし」にします。また、「詳細設定」タブの「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「何もしない」にします。

□「電源設定」タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、節電機能が働くまでの時間を設定できます。「電源設定」から「バッテリの最大利用」または「ポータブル／ラップトップ」を選択し、各項目を次のように変更してください。

「モニタの電源を切る」：モニタの電源が切れるまでの時間を設定できます。

出荷時の設定は、「バッテリの最大利用」です。出荷時設定のままでのご使用をお勧めします。

□「アラーム」タブ

バッテリの残量が少なくなったときにWindowsが出す警告に関する設定をします。

音で知らせる場合は、「アラームの動作」をクリックし、「通知方法」の「音で知らせる」にチェックを付けます。

POINT

- ▶ 「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」のチェックを外すと、バッテリが切れた時点で電源が切断されます。この場合は、作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になったりすることがあります。

□「詳細設定」タブ

電源ボタンを押したときや液晶ディスプレイを閉じたときの、パソコン本体の動作状態を設定します（ご購入時は、スタンバイになるように設定されています）。

「電源ボタン」の各項目を次のように変更してください。

- 「ポータブルコンピュータを閉じたとき」
：液晶ディスプレイを閉じたときの動作を設定できます。
- 「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
：電源ボタンを押したときの動作を設定できます。

重要

- ▶ 「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定で移行したい状態に「何もしない」を選択した場合、本パソコンの動作中に液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、本パソコンが故障する原因となります。

スタンバイ

各項目での動作は「電源オプションのプロパティ」ウィンドウでの設定によります。スタンバイにするには、次の方法があります。

■「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使う

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

「コンピュータの電源を切る」ウィンドウが表示されます。

2 「スタンバイ」を選択します。

しばらくするとスタンバイになります。

■ 電源ボタンを使う

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブでの設定により、電源ボタンを押したときにスタンバイになります。詳しくは、「省電力の設定」(→P.82)をご覧ください。

1 状態表示 LED の内蔵フラッシュメモリアクセス表示が点灯していないことを確認し、電源ボタンを押します。

しばらくするとスタンバイになります。

POINT

- ▶ 電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

■ 液晶ディスプレイを閉じる

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウでの設定により、スタンバイに移行します。

重要

- ▶ 液晶ディスプレイは静かに閉じてください。
閉じるときに液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。

1 液晶ディスプレイを閉じます。

しばらくするとスタンバイになります。

POINT

- ▶ 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の項目を「何もしない」に設定すると、液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイにしないように設定できます。ただし、「何もしない」に設定した場合は、液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- ▶ 省電力状態になったことを示す「ピピッ」という音を確認してください（ボリュームを小さくしていると聞こえません）。また、液晶ディスプレイを閉じた後、まれにスタンバイにならずにパソコン本体が動作し続けることがあります。放熱が妨げられ、故障の原因になりますので、パソコン本体の動作が停止したかどうかを確認してください。
- ▶ 液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイにならない場合、液晶ディスプレイを開いて電源ボタンを押し、スタンバイになったことを確認してから液晶ディスプレイを閉じてください。

- ▶ ソフトウェアの動作中には、液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイにならない場合があります。ソフトウェアの動作が止まった後で、液晶ディスプレイを閉じてください。

スタンバイからのレジューム

レジューム後しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。レジュームには、次の方法があります。

■ 電源ボタンを押す

液晶ディスプレイが開いているときに使用します。

スタンバイからレジュームする場合は、電源ランプが点滅していることを確認してください。

■ 液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイが閉じているときに使用します。

■ LAN 着信によるレジューム (Wakeup on LAN)

他のコンピュータから本パソコンにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。無線 LAN をお使いの場合、Wakeup on LAN 機能はお使いになれません。

なお、「LAN 着信によるレジューム」の設定をしているときは、スタンバイ中に液晶ディスプレイを閉じないでください。レジューム後に放熱が妨げられ、故障の原因となります。

ネットワーク環境下で Wakeup on LAN 機能を使用する場合は、次のように設定してください。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2** 「スタート」ボタン→「設定」→「ネットワーク接続」の順にクリックします。
「ネットワーク接続」が表示されます。
- 3** 「ローカルエリア接続」をダブルクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」が表示されます。
- 4** 「構成」ボタンをクリックします。
「Marvell Yukon 88E8055 PCI-E Gigabit Ethernet Controller のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「電源の管理」タブをクリックします。
- 6** 次の 2 つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。
 - ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする
- 7** 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

Memo

第4章

周辺機器の設置／設定／増設

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

1 周辺機器を取り付ける前に	88
2 メモリ	90
3 プリンタ	94

1 周辺機器を取り付ける前に

インターフェースのご使用について

本パソコンでは、あらゆる周辺機器の動作を保証するものではありません。ご使用になる周辺機器については、ご購入元にご確認ください。

取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

● 周辺機器によっては設定作業が必要です

本パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。例えば、プリンタを使うには、取り付けた後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらない機器もあります。周辺機器は、本書をよくご覧になり、正しく接続してください。

● マニュアルをご覧ください

ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

● 純正品をお使いください

弊社純正の周辺機器については、ご購入元にご確認ください。また、FMV シンクライアントのカタログ (<http://www.fmworld.net/biz/> → 「パソコン」 → 「カタログ」 → 「シンクライアント」) のオプション一覧でもご確認できます。

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

● ACPI 対応した周辺機器をお使いください

本パソコンは ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

● 周辺機器の電源は、本パソコンの電源を入れる前に入れてください

電源を入れて使う周辺機器を取り付けた場合は、周辺機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、本パソコンの電源を切つてから周辺機器の電源を切ってください。

 **重要**

- ▶ コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ▶ 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1つずつ取り付けて設定をしてください。

2 メモリ

メモリを増設する

△ 警告

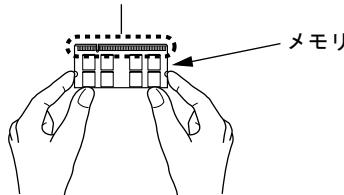


- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタや周辺機器を取り外してください。スタンバイ中は、取り付け／取り外しを行わないでください。感電の原因となります。また、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。
- 取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

○ 重要

- ▶ 本パソコンのネジを取り外すときは、ネジに合ったプラスのドライバー1番をお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすことがあります。
- ▶ 取り付けるメモリは、本パソコンでサポートしているメモリをお使いください。
FMVNMGJ5 (1GB)、FMVNMGJ4 (2GB)
PC2-4200相当の性能で動作します。
- ▶ メモリは次図のように両手でふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

この部分には手を触れないでください



- ▶ メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

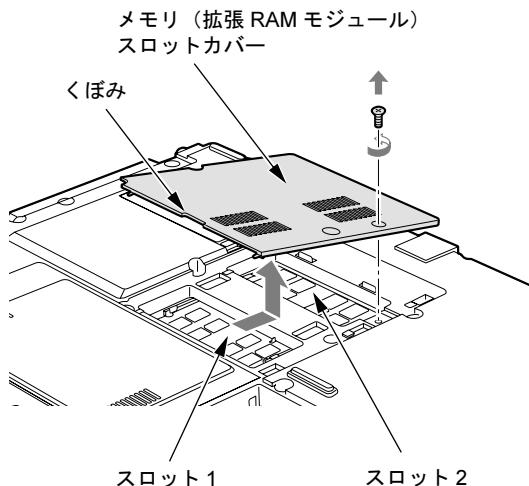
- ▶ 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリの表面の端子やIC部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- ▶ メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。
- ▶ メモリを取り付け、メモリの容量を確認するには、BIOS セットアップの「情報」メニューの「メモリスロット」の項目を見ます（→ P.108）。「1024MB DDR2 SDRAM」などと取り付けたメモリの容量が表示されます。取り付けが正しいにもかかわらず本パソコンが起動しない場合は、メモリが故障または不良です。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ▶ 本パソコンは、メインメモリの一部をビデオメモリで使用しています。起動時の自己診断（POST）時や Windows の画面に表示されるメモリの容量は、取り付けたメモリの総容量より、約 8MB ~ 9MB 少なくなります。
- ▶ メモリを増やすときは、あらかじめ取り付けられているメモリを取り外して交換する場合があります。
- ▶ 合計で 2GB を超えるメモリを搭載した場合は、完全メモリダンプを使用できません。

1 内蔵バッテリパックを取り外します。

内蔵バッテリパックの取り外しについては、「取り扱い」 - 「内蔵バッテリパックを交換する」（→ P.53）の手順 1 ~ 3 をご覧ください。

2 メモリ（拡張 RAM モジュール）スロットカバーを取り外します。

パソコン本体下面（→ P.27）のネジを外し、くぼみに指をかけメモリ（拡張 RAM モジュール）スロットカバーを斜め上の方向に持ち上げてから、取り外します。

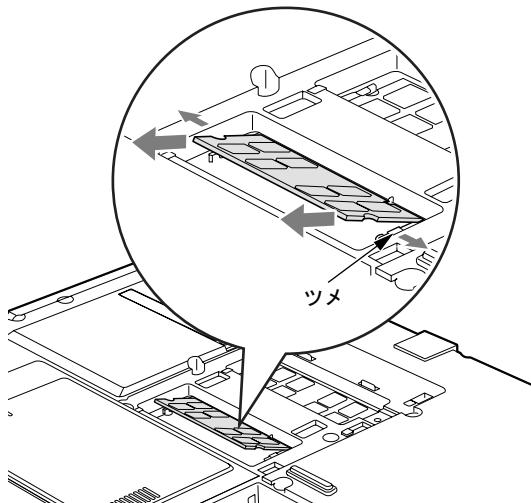


POINT

- ▶ メモリスロットにメモリを取り付ける場合は、手順 4 をご覧ください。
- ▶ 取り付けられているメモリを新しいメモリに交換する場合は、手順 3 をご覧ください。

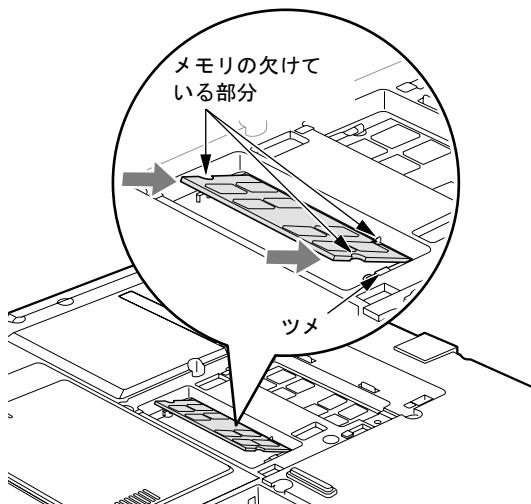
3 交換したいメモリを取り外します。

メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、スロットからメモリを取り外します。

**4 メモリを取り付けます。**

両手でメモリのふちを持って、メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。

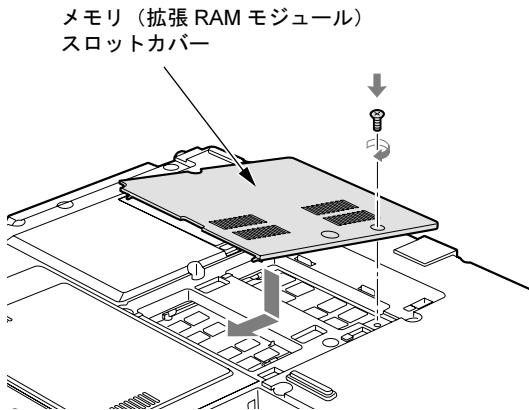
メモリを押さえている両側のツメが、きちんとはまつたことを確認してください。



重要

- ▶ スロット1とスロット2以外のスロットには、手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリの取り付けを行う場合は、端子やICなどに触れないようメモリのふちを持ってください。
- ▶ メモリの表面の端子やIC部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- ▶ メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから、もう一度メモリを取り付けてください。無理にメモリを取り付けようとすると、メモリやコネクタが破損する原因となります。

- 5 メモリ(拡張 RAM モジュール)スロットカバーを取り付け、ネジで固定します。**
手順 2 で外したメモリ(拡張 RAM モジュール)スロットカバーを取り付けます。メモリ(拡張 RAM モジュール)スロットカバーのツメをパソコン本体のツメ穴に合わせてください。



- 6 内蔵バッテリパックを取り付けます。**
内蔵バッテリパックの取り付けについては、「取り扱い」—「内蔵バッテリパックを交換する」(→ P.53) の手順 4 をご覧ください。

重要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを 4 秒以上押して本パソコンの電源を切り、もう一度メモリを取り付けてください。

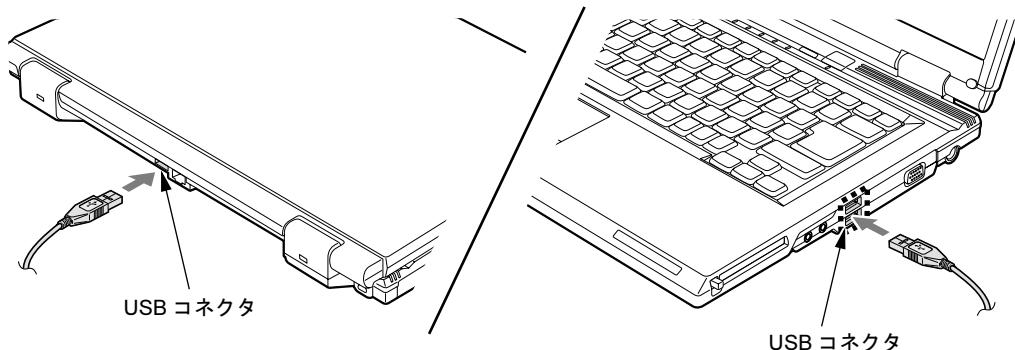
3 プリンタ

■ 重要

- ▶ プリンタの接続には、プリンタケーブルが必要です。プリンタケーブルは、プリンタに添付されていないことがあります。
また、プリンタケーブルが添付されているものでも、コネクタの形状により接続できないことがあります。そのような場合は、接続できるプリンタケーブルを別途ご購入ください。
- ▶ プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。詳しくは、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。

接続

■ USB コネクタの場合



第5章

ソフトウェア

本パソコンに搭載されているソフトウェアについて説明しています。

5

1 ソフトウェア一覧	96
2 ドライバ、ソフトウェアのインストールについて	99

1 ソフトウェア一覧

本パソコンには、次のソフトウェアが搭載されています。

搭載ソフト一覧

- 「Microsoft Windows XP Embedded with Service Pack 2」（→ P.96）
- 「Internet Explorer」（→ P.96）
- 「Microsoft IME スタンダード 2002」（→ P.97）
- 「Windows Media Player」（→ P.97）
- 「Citrix Presentation Server クライアント（ICA クライアント）」（→ P.97）
- 「リモートデスクトップ接続」（→ P.97）
- 「SMARTACCESS/Basic」（→ P.97）
- 「SMARTACCESS/Premium（指紋センサー搭載機種）」（→ P.97）
- 「保護管理ツール」（→ P.97）
- 「Portshutter」（→ P.98）
- 「Atheros Client Utility」（→ P.98）
- 「情報表示ツール」（→ P.98）
- 「FMV サポートナビ」（→ P.98）

各ソフトウェアの紹介

■ Microsoft Windows XP Embedded with Service Pack 2

Windows OS のコンポーネント化されたバージョンです。

本パソコンは、Microsoft Windows XP Embedded with ServicePack 2 (SP2) をベースに開発しており、シンクライアント用に最適化しております。

詳しくは、「Windows XP Embedded with Service Pack 2について」（→ P.12）をご覧ください。

■ Internet Explorer

WWW (World Wide Web) ブラウザです。

POINT

- ▶ 本パソコンでは、Citrix Presentation ServerのWebインターフェースでの使用を主な用途と想定しております。セキュリティの一元管理の観点からもインターネットの閲覧の場合は、「リモートデスクトップ接続」または、「Citrix Presentation Server クライアント」を使用してのサーバー側Internet Explorerの使用をお勧めします。
- ▶ EWFシステムが無効で内蔵フラッシュメモリへの書き込みが解除された状態では、Internet Explorer よりファイルをデスクトップ上に保存できます。
通常は、「保護管理ツール」においてEWFシステムを有効にし、内蔵フラッシュメモリへの書き込みができるよう「保護設定」状態にしてご使用ください。

■ Microsoft IME スタンダード 2002

日本語入力変換ユーティリティです。

POINT

- ▶ 次の機能はご使用になれません。
IME パッドの「手書き」、「音声入力」機能、システム辞書の「郵便番号辞書」、「単漢字辞書」、「話し言葉・顔文字辞書」、「カタカナ語英語辞書」、「記号辞書」、「文字コード辞書」。

■ Windows Media Player

マルチメディアコンテンツ再生ソフトウェアです。

動画や音声の再生に使用できます。

■ Citrix Presentation Server クライアント (ICA クライアント)

Citrix Presentation Server に接続するソフトウェアです。

サーバー上でクライアント・ソフトウェアを動作させ、本パソコン上には画面情報のみを転送し表示させます。そのため、本パソコンでは実データをもちません。

「プログラム」メニューでは「Citrix」→「Citrix Access クライアント」と登録されています。

■ リモートデスクトップ接続

ターミナルサーバー、または Windows XP Professional を実行しているほかのコンピュータに接続するソフトウェアです。

■ SMARTACCESS/Basic

スマートカードを使用した、Windows ログオン認証などのセキュリティ機能があります。

リカバリディスク内の次のフォルダに、マニュアルとサポートツールを格納しています。

¥VALUEADD¥SABasic

■ SMARTACCESS/Premium (指紋センサー搭載機種)

静脈、指紋、スマートカードを使用した、Windows ログオン認証などのセキュリティ機能があります。

重要

- ▶ 本パソコンの本ソフトウェアには使用権はありません。
ご使用いただく場合は、別途ライセンスをご購入ください。

■ 保護管理ツール

各種設定を内蔵フラッシュメモリに書き込むためのソフトウェアです。管理者権限でのみご使用になります。

詳しくは、「保護管理ツールについて」(→ P.32) をご覧ください。

■ Portshutter

USBポートやPCカードなどの接続ポートを無効にするソフトウェアです。不要な機器を接続させないことにより、情報漏洩を防止できます。

詳しくは、添付の「リカバリディスク」にある「VALUEADD\Portshut\Manual\操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

◀ 重要

- ▶ 無効に設定したポートは、機器を接続してもお使いになれません。
- ▶ パラレル／シリアルポートを無効化した場合、それらに接続されるオプション製品はお使いになれません。
- ▶ USB は、接続許可する機器を登録し、それ以外の機器はすべて無効となる設定です。
 - ・すべての USB を無効にした場合、指紋センサー、スマートカードリーダ／ライタはお使いになれません。

■ Atheros Client Utility

内蔵無線 LAN のユーティリティです。詳しくは、『IEEE 802.11a/g 準拠 内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

■ 情報表示ツール

装置およびシステムの情報を表示します。

■ FMV サポートナビ

本パソコンの「診断プログラム」の起動および本パソコンの情報を表示します。

Support ボタンを押すと FMV サポートナビが起動します。

○ POINT

- ▶ 「診断プログラム」を実行すると、本パソコンを再起動して、起動メニューを表示します。起動メニューから本パソコンの診断を行う「診断プログラム」を起動することができます。
- ▶ パソコンの情報を実行すると、本パソコンの情報を表示します。サポートを受ける場合に必要な情報です。

2 ドライバ、ソフトウェアのインストールについて

本パソコンに搭載されている OS では、フロッピードライブや CD/DVD ドライブはご使用になれません。

ドライバやソフトウェアを本パソコンにインストールするときは、PC メモリカードや CF メモリカード、USB メモリに必要となるファイルをコピーしてから本パソコンにセットし、インストールをしてください。

インストールする際のセットアッププログラムは、次の手順で起動してください。

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

cmd. exe

「コマンドプロンプト」が起動します。

3 インストールするドライバやソフトウェアのセットアップを起動します。

また、ファイルのコピー元を指定するウィンドウが表示された場合、「参照」をクリックしてドライブやパスを指定することはできません。ドライブ名とパスを直接入力してください。

リカバリディスクについて（格納ドライバとソフトウェア）

リカバリディスクには次のドライバとソフトウェアが格納されています。

- 無線 LAN ドライバ
- Portshutter
- ユーザー辞書ユーティリティ

CD/DVD が使用できる Windows パソコンにリカバリディスクをセットし、格納されているリストをご覧ください。

本パソコンでは CD/DVD ドライブは使用できませんが、Windows パソコンより USB メモリなどのストレージ媒体を経由することで本パソコンへのインストールが可能になります。

1 本パソコンでインストーラを起動するためのストレージ媒体を用意します。

- ・ PC メモリカード、CF メモリカード、または USB メモリ

2 次のものが使用できる Windows パソコンを用意します。

- ・ CD/DVD ドライブ
- ・ お使いになるストレージ媒体に合ったスロット

3 Windows パソコンに、リカバリディスクとストレージ媒体をセットします。

4 インストールに使用するドライバやソフトウェアのフォルダを、リカバリディスクからストレージ媒体にコピーします。

- 5 コピーが完了したら、ストレージ媒体を本パソコンにセットします。
- 6 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 7 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
cmd.exe
「コマンドプロンプト」が起動します。
- 8 インストールするドライバやソフトウェアのセットアップを起動します。

■ リカバリディスク内のフォルダ構成

□ 無線 LAN ドライバ

- コピーフォルダ
¥VALUEADD¥Atheros
- セットアッププログラム
setup.exe

□ Portshutter

- コピーフォルダ
¥VALUEADD¥Portshut¥Portshutter
- セットアッププログラム
setup.exe

□ ユーザー辞書ユーテリティ

使い方については、コピーフォルダ内の「README.TXT」をご覧ください。

- コピーフォルダ
¥VALUEADD¥FJTools

第 6 章

BIOS

BIOS セットアップについて説明しています。

1 BIOS セットアップとは	102
2 BIOS セットアップの操作のしかた	103
3 メニュー詳細	108
4 BIOS のパスワード機能を使う	115
5 認証デバイスのセキュリティ機能を使う	119
6 BIOS が表示するメッセージ一覧	121

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンのご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断（POST）で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（→ P.104）の「項目ヘルプ」をご覧ください。

POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく設定しても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断中に、不用意に電源を切らないでください。
本パソコンは、自己診断中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージが表示されます。
- ▶ 起動時の自己診断（POST）
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断」（POST:Power On Self Test）といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

- 1** 作業を終了してデータを保存します。
- 2** 状態表示 LED の内蔵フラッシュメモリアクセス表示が点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
- 3** 「FUJITSU」ロゴが表示され、画面の下に「マウスをクリックするか、<Enter>を押してください。」と表示されている間に、【Enter】キーを押します。
ポップアップメニューが表示されます。

POINT

- ▶ Windows が起動してしまった場合は、起動完了後に、もう一度手順 2 からやり直してください。
- ▶ 「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」(→ P.111) を「使用する」に設定した場合、パスワードを入力後（指紋を登録した場合は指紋認証後）、認証画面が消えた後、すぐに【Enter】キーを押してください。

- 4** 【↓】【↑】キーを押して「BIOS セットアップ」を選択し、もう一度【Enter】キーを押します。



BIOS セットアップ画面が表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



(画面は機種やモデルにより異なります)

1. メニューバー

メニュー名が表示されます。

2. 項目／設定フィールド

各メニューで設定する、項目と設定値が表示されます。画面右側に項目ヘルプが表示されることがあります。項目ヘルプでは、カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

3. キー一覧

設定時に使うキーの一覧です。

POINT

- 手順 4 で「起動メニュー」を選択すると、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。



設定を変更する

設定はキーボードで変更します。

- 1** 【←】【→】キーを押して、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2** 【↓】【↑】キーを押して、設定したい項目を選びます。
- 3** 【Space】キーまたは【-】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。
さらに他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。
- 4** 設定を保存して終了します。
終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.107) をご覧ください。

重要

- ▶ BIOS セットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを再起動してください。

POINT

- ▶ 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「終了メニュー」(→ P.114) をご覧ください。
- ▶ 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(→ 『取扱説明書』)をご覧ください。
- ▶ 項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。メニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

各キーの役割

設定に使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【←】キー、【→】キー	メニュー画面を切り替えます。
【Pg Up】キー、【Pg Dn】キー	メニュー画面が複数ページにわたる場合は、【Fn】キーを押しながらこれらのキーを押すことで、前ページ、または次ページに移動します。
【Home】キー、【End】キー	【Fn】キーを押しながらこれらのキーを押すことで、メニュー画面の最初の項目、または最後の項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。 設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【F1】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押すと、画面を閉じることができます。
【Alt】+【H】キー	
【F5】キー	各項目の設定を1つ前の設定値に変更します。
【-】キー	
【F6】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【Space】キー	
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【Esc】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1つ上のメニュー画面に戻ります。
【Alt】+【X】キー	

POINT

- ▶ ここでいう【-】キーは[二] [一]のことです。

BIOS セットアップを終了する

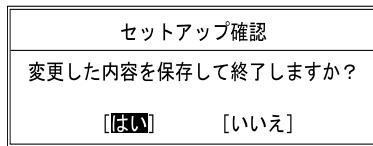
変更した設定を有効にするには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。次の操作を行い、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 【↑】【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。

次のメッセージが表示されます。



3 【←】【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- ▶ サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ~ 3 回押してください。
- ▶ 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください（→ P.114）。
- ▶ いったん設定内容を保存した後、さらに他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください（→ P.114）。
 1. 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、【Enter】キーを押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
 2. 【←】【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 メニュー詳細

☞ 重要

- ▶ BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

□ 型名

□ カスタムメイド番号

□ 製造番号

□ BIOS 版数

□ CPU タイプ

□ L2 キャッシュ

□ 全メモリ容量

- メモリスロット 1 (標準メモリスロット)
- メモリスロット 2 (増設メモリスロット)

POINT

- ▶ メモリを取り付けていないときは、「未使用」と表示されます。

□ MAC アドレス

□ UUID

□ パネル ID

システムメニュー

「システム」メニューでは、日時や、ドライブやメモリの機能などを設定します。

□ システム時刻

□ システム日付

□ ドライブ 0

本パソコンでは、設定を変更せずにご使用ください。

□ ドライブ 1

本パソコンでは、ご使用になれません。

□ 言語 (Language)

POINT

- ▶ 設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器などを設定します。

□ キーボード／マウス設定

- 起動時の Numlock 設定

□ ディスプレイ設定

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」ウィンドウで画面表示を切り替えることができます。詳しくは、「取り扱い」－「ディスプレイ」(→ P.59) をご覧ください。

- ディスプレイ

□ その他の内蔵デバイス設定

- シリアル ATA コントローラ
- IDE コントローラ
- 内蔵 LAN デバイス
- 無線 LAN デバイス

POINT

- ▶ お使いのモデルにより、「無線 LAN デバイス」は表示されません。

□ CPU 設定

- XD ビット機能

□ USB 設定

- レガシー USB サポート
 - ・SCSI サブクラスサポート

POINT

- ▶ 「SCSI サブクラスサポート」を使用して、本パソコンが起動しなくなった場合は、USB デバイスを取り外して再起動してください。

□ 各種設定

- 電源ボタン
- LAN によるウェイクアップ
 - ・強制 LAN ブート
- 音量設定

□ イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

POINT

- ▶ イベントログメッセージで、「POST エラー : nnnnnnnnnn nnnnnnnnnn」というメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。それ以外は、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- イベントログ
 - ・システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるように設定します。

管理者用パスワード

ユーザー用パスワード

管理者用パスワード設定

POINT

- ▶ 次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定することができます。
 - ・ユーザー用パスワード設定
 - ・ユーザー用パスワード文字数
 - ・起動時のパスワード
 - 自動ウェイクアップ時
 - ・取外し可能なディスクからの起動
 - ・BIOS フラッシュメモリへの書き込み
 - ・スマートカードによるロック
 - ・所有者情報

ユーザー用パスワード設定

POINT

- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている場合、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

ユーザー用パスワード文字数

POINT

- ▶ 「ユーザー用パスワード文字数」は、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用パスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

起動時のパスワード

- 自動ウェイクアップ時

取外し可能なディスクからの起動

BIOS フラッシュメモリへの書き込み

スマートカードによるロック

重要

- ▶ 「スマートカードによるロック」を「使用する」に設定すると、次の項目が設定できなくなります。
 - ・管理者用パスワード設定
 - ・ユーザー用パスワード設定

- ・ユーザー用パスワード文字数

POINT

- ▶ 「スマートカードによるロック」は、スマートカードホルダーをセットしている場合のみ表示されます。
- ▶ スマートカードを使用する場合は、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

□ ハードディスクセキュリティ

ご使用になれません。

□ 所有者情報

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は、表示されるだけで選択することはできません。

- 所有者情報
- 所有者情報設定
- 文字色
- 背景色

□ TPM（セキュリティチップ）設定

ご使用になれません。

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコン起動時の動作について設定します。

□ 起動時の自己診断画面

□ 起動メニュー

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「起動メニュー」は表示されるだけで選択することはできません。

□ ネットワークサーバからの起動

□ 起動デバイスの優先順位

● 起動デバイスリスト

- 1: Floppy Disk Drive
- 2: Drive0 HDD: nnnnn
- 3: CD/DVD Drive
- 4: NETWORK: nnnnn
- 5:
- 6:
- 7:
- 8:

● 除外された起動デバイス

- : USB MEMORY: None
- : USB HDD: None

POINT

- ▶ 起動デバイスリスト内の「nnnnn」にはお使いのデバイス名が表示されます。
- ▶ 使用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。検索順序を変更したり、起動デバイスリストから除外したり、除外された起動デバイスを起動デバイスリストに戻したりすることができます。
- ▶ 「1: Floppy Disk Drive」はポータブルのFDDユニット(USB)も含まれます。
- ▶ 「3: CD/DVD Drive」はポータブルCD/DVDドライブ(USB)も含まれます。
- ▶ 「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合、「4: NETWORK: nnnnn」と表示され起動デバイスとして検索されます。「使用しない」に設定されている場合は、「4: NETWORK: None」と表示され検索の対象外になります。
- ▶ CDから起動するには起動可能なOSの入ったCDが必要となります。
再起動前にCD/DVDドライブにCDをセットしてください。

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

変更を保存して終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了します。

変更を保存せずに終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存せずに、BIOS セットアップを終了します。

標準設定値を読み込む

すべての項目を標準設定値にします。

変更前の値を読み込む

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

変更を保存する

変更した内容を CMOS RAM に保存します。

変更を保存して電源を切る

変更した内容を CMOS RAM に保存して、パソコン本体の電源を切ります。

4 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを保護するためのパスワード機能について説明します。

本パソコンでは、不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次のとおりです。

- 管理者用パスワード

本パソコンのご購入者などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。

- ユーザー用パスワード

本パソコンの「管理者」以外のユーザーが使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

■ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

- 1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.103) をご覧ください。

- 2 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード設定」(→ P.111)、または「ユーザー用パスワード設定」(→ P.111) を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

- 3 1 ~ 32 桁までのパスワードを入力します。

アルファベットと数字が入力できます。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

ユーザー用パスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」(→ P.111) で設定することができます。

- 4** パスワードを入力したら、【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力が求められます。
- 5** 手順3で入力したパスワードを再度入力して、【Enter】キーを押します。
「セットアップ通知」ウィンドウが表示されます。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」ウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。
- 6** 【Enter】キーを押します。
- 7** BIOS セットアップを終了します。
終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.107) をご覧ください。

パスワードを設定した後は

パスワードを設定すると、設定状態により、次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき
- スタンバイ状態からレジュームするとき

POINT

- ▶ 管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードとが異なる場合は、それぞれのパスワードの入力が必要になります。

■ BIOS セットアップ、本パソコンの起動時、レジューム時のパスワード入力

パスワード入力ウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを忘れてしまったら

管理者用パスワードを忘れるると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要になります。パスワードを何かに書き留めて、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。修理は、保証期間にかかるわらず有償になります。

パスワードの管理には充分ご注意ください。

POINT

▶ ユーザー用パスワードを忘れた場合

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。本パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順に、もう一度パスワードを設定してください。

パスワードを変更／削除する

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するには、次のように操作してください。

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.103) をご覧ください。

**2 「セキュリティ」メニュー (→ P.111) で設定したいパスワードを選択し、
【Enter】キーを押します。**

- ・管理者用パスワード設定
- ・ユーザー用パスワード設定

3 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

4 1～32桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力が求められます。

5 手順4で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」ウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順4からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

6 【Enter】キーを押します。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

7 BIOS セットアップを終了します。

終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.107) をご覧ください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順4～5で、何も入力せずに【Enter】キーを押してください。

POINT

- ▶ ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が0のときだけです。0以外のときは、「パスワード文字数不足」のメッセージが表示されます。

5 認証デバイスのセキュリティ機能を使う

スマートカードがお使いになります。

スマートカードの使用方法および設定方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

スマートカード使用時のエラーメッセージ

スマートカードが挿入されていません。

スマートカードを挿入してください。

[継続]

スマートカードがセットされていないときに表示されます。

入力された PIN は間違っています。

あと nn 回 PIN を間違えるとスマートカードがロックされます。

[継続]

PIN の入力を間違えたときに、PIN を入力できる残り回数を表示します。

入力された PIN は間違っています。

再度 PIN を間違えるとスマートカードがロックされます。

[継続]

PIN を入力できる残り回数が 1 回のときに表示されます。

スマートカードに接続できませんでした。

もう一度やり直して下さい。

[継続]

スマートカードホルダーやスマートカードに異常がある場合に表示されます。この場合、スマートカードが正常にセットされているか、カードに損傷がないか確認してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

このスマートカードは使用できません。

正しいスマートカードを挿入してもう一度やり直してください。

[継続]

読み取りに必要な情報がないときに表示されます。この場合、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧になり、正常なカードをお使いになるか、ログオン情報を登録してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

システムは使用できません。

スマートカードに登録されている BIOS ロック用パスワードが、BIOS セットアップで設定した管理者用パスワード・ユーザー用パスワードのどちらとも一致しない場合に表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。

このスマートカードはロックされました。

スマートカードがロックされたときに表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。

このスマートカードはロックされています。

スマートカードがすでにロックされているときや、読み取りに必要な情報がロックされているとき、アクセス権がないときに表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。

POINT

- ▶ 本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

6 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って操作してください。

1 BIOS セットアップを再起動します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して本パソコンを再起動してください（→『取扱説明書』）。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付けて本パソコンを再起動し、動作を確認してください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常、起動時の自己診断（POST）（→P.102）時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- ▶ メッセージ中の「n」には数字が表示されます。

■ 正常時のメッセージ

パソコン本体や周辺機器に問題がない場合、BIOS のメッセージは表示されません。正常時に BIOS のメッセージを表示させる場合は、本パソコンを起動して「FUJITSU」ロゴが表示されている間に【Esc】キーを押します。

- Please Wait... お待ちください ...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- nnnnM システムメモリテスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。
- nnnnK メモリキャッシュテスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。

POINT

- ▶ 正常時のメッセージを常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」（→P.113）の項目を「使用する」に設定してください。

■ エラーメッセージ

● 拡張メモリエラー。アドレス行 : nn

メモリのテスト中に、アドレス nn でエラーが発見されたことを示しています。

メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品であるかどうかを確認してください。

それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● キーボードエラーです。

キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● キーボード接続エラーです。

キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。

テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかどうかを確認し、電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● ディスクのエラーです。: ハードディスク n

ハードディスクドライブの設定にエラーがあることを示しています。

BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「ドライブ n」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● システムタイマーのエラーです。

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● リアルタイムクロックのエラーです。

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。

電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。

【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだ後、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● 前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。

前回の起動時に正しく起動されなかつたため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。

起動途中に電源を切ってしまった場合、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できず、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。

● < F1 >キーを押すと継続、< F2 >キーを押すと BIOS セットアップを起動します。

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

- **日付と時刻の設定を確認してください。**
日付と時刻の設定値が正しくありません。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- **NVRAM データが正しくありません。**
NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。**
温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **ファンエラー。システムの電源が切れます。**
冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。**
前回の起動時にサーマルセンサエラーが発生したことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動中にファンエラーが発生しました。**
前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティチップ初期化エラーです。**
セキュリティチップの初期化でエラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティチップ MAD ファンクションエラーです。**
セキュリティチップ使用時にエラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティチップ MPD ファンクションエラーです。**
セキュリティチップ使用時にエラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティチップ MPD ファンクション実行エラーです。**
セキュリティチップ使用時にエラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **セキュリティチップが見つかりません。**
セキュリティチップが見つからなかったことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Invalid system disk**
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- Non-System disk or disk error

Replace and press any key when ready

フロッピーディスク ドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- NTLDR is missing

Press any key to restart

フロッピーディスク ドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- Remove disks or other media.

Press any key to restart

フロッピーディスク ドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- Operating system not found

OS が見つからなかったことを示しています。

BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいかどうか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかどうかを確認してください。

- PXE-E61:Media test failure, Check cable

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

- PXE-E53:No boot filename received

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーから、起動時に必要な IP アドレスまたは boot filename を取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

- PXE-E78:Could not locate boot server

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

- PXE-E89:Could not download boot image

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

- PXE-E32:TFTP open timeout

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

 **POINT**

- ▶ 本書に記述されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

第7章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

1 パソコン本体のお手入れ	128
2 液晶ディスプレイのお手入れ	129
3 キーボードのお手入れ	130
4 マウスのお手入れ	131
5 空冷用通風路のお手入れ	133

1 パソコン本体のお手入れ

△警告



- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、必ず次の事項を行うようにしてください。
 - ・パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
 - ・周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。
- 清掃の際、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。故障・火災の原因となります。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。また、中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナー やベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

2 液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。

重要

- ▶ 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- ▶ 液晶部分を拭くときは、必ずから拭きしてください。水や中性洗剤を使うと、液晶部分を傷めるおそれがあります。
- ▶ 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの

3 キーボードのお手入れ

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。また、中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。拭き取りの際は、キーボード内部に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

重要

- ▶ 清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。
- ▶ キーボードのキーとキーの間のほこりなどを取る場合、次の点にご注意ください。
 - ・ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
 - ・ほこりなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って軽くほこりを取り除いてください。
- その際、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。

4 マウスのお手入れ

☞ 重要

- ▶ カスタムメイドの選択により、USB マウス、USB マウス（光学式）、小型マウス（レーザー式）のいずれかが添付されています。

マウスのお手入れの際は、マウスをパソコン本体から取り外してください。

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。

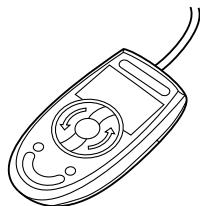
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。また、中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。拭き取りの際は、マウス本体に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

USB マウス（ボール）のお手入れ

USB マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。なお、ボールの形状はお使いのマウスによって異なります。

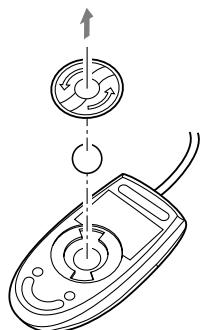
1 マウスの裏ズタを取り外します。

マウスの底面にある裏ズタを、矢印の方向に回して取り外します。



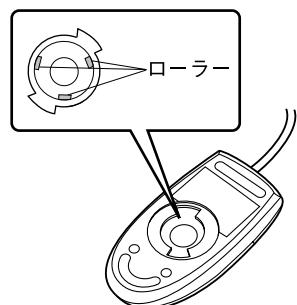
2 ボールを取り出して、水洗いします。

ボールを水洗いした後は、充分に乾燥させてください。



3 マウスの内部をクリーニングします。

マウスの内部と裏ブタを、水に浸して固く絞った布でよく拭きます。
ローラーは、綿棒で拭きます。



4 ボールと裏ブタを取り付けます。

ボールとマウスの内部を充分に乾燥させたら、ボールと裏ブタを取り付けます。

5 空冷用通風路のお手入れ

本パソコンは、性能を維持するために放熱用のファンを搭載しています。放熱用ファンは、パソコン本体の外部と内部との間に空気の流れを作ってパソコン本体内部を冷却しているため、ご利用の環境によってはパソコン本体内部に周囲のほこりを取り込んでしまうことがあります。このほこりが徐々に蓄積していくと、パソコン本体が本来の性能を発揮できなくなる場合があります。

「パソコンの空冷用通風路にほこりが詰まっている可能性があります。」というメッセージが表示された場合、この後の手順に従って正しく清掃を行い、ほこりを取り除いてください。

修理

- ▶ 感電のおそれがありますので、清掃前には必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
- ▶ 清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。
- ▶ 次のことご注意ください。
 - ・洗剤は使用しないでください。
 - ・清掃時に破損した場合、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分ご注意ください。
 - ・ほこりを取り除く際は、プラスチック製の楊子や歯間ブラシなどをお使いください。金属などの硬いものや、木製の折れやすいものなどを使うと故障の原因となります。
- ▶ パソコン本体内部は、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまたま静電気によって破壊される場合があります。
パソコン本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

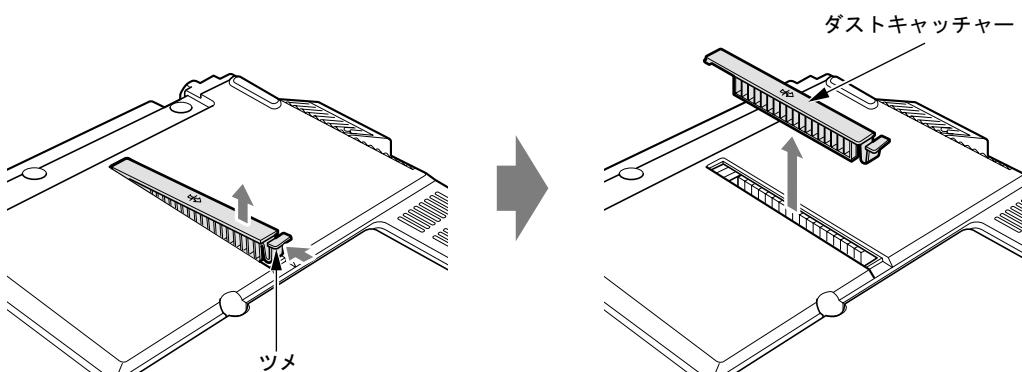
1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します(→『取扱説明書』)。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

液晶ディスプレイを閉じる場合は、文房具などをはさまないようにして静かに閉じてください。

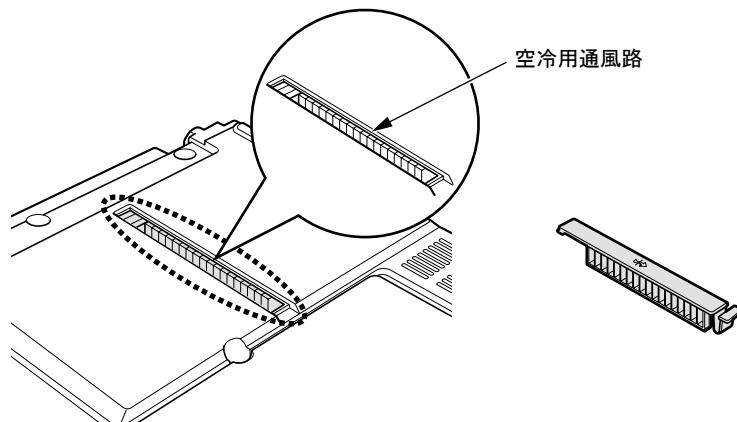
3 ダストキャッチャーを取り外します。

ツメを矢印の方向に押しながら、ダストキャッチャーを取り外します。



4 ダストキャッチャーと空冷用通風路を清掃します。

ダストキャッチャーと空冷用通風路のほこりを取り除いてください。

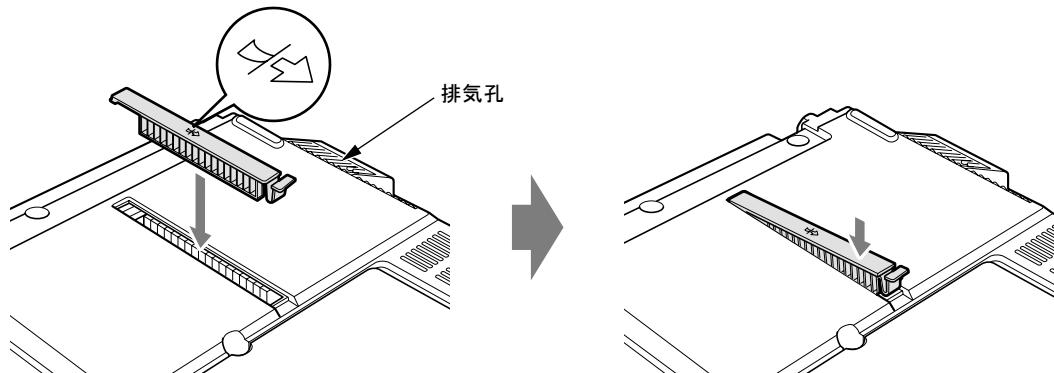


重要

- ▶ 金属部分を傷つけないように注意してください。

5 ダストキャッチャーを取り付けます。

ダストキャッチャーをツメのない側から差し込み、カチッと音がするまでしっかりとめこみます。



重要

- ▶ ダストキャッチャーを取り外したまま使用しないでください。取り外したまま使用すると、故障の原因となることがあります。

第8章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことが
あったときの対処方法について説明していま
す。

1	トラブルに備えて	136
2	トラブル発生時の基本操作	138
3	起動・終了時のトラブル	141
4	Windows・ソフトウェア関連のトラブル	144
5	ハードウェア関連のトラブル	146
6	それでも解決できないときは	155

1 トラブルに備えて

テレビ／ラジオなどの受信障害防止

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止するVCCIの基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じても、本パソコンの故障ではありません。

テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点に注意してください。

■ 本パソコンの注意事項

- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかりと締めてください。
- 本パソコンのACアダプタは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

■ テレビやラジオなどの注意事項

- テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを、本パソコンから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本パソコンや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、前述の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

自動車内での使用について

パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証しておりません。

ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールを行う前に、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ハードウェア／ソフトウェア要件

使用したい周辺機器やソフトウェアが本パソコンのハードウェア構成や Windows で使用できるか確認します。

- 取り付け時やインストール時に注意すべき点

特に「Readme.txt」や「Install.txt」などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずにご覧ください。

また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報

- 問題が解決されたドライバやソフトウェアの修正モジュール

弊社の富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

2 トラブル発生時の基本操作

本パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本パソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？またゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上に物を載せていませんか？
キーが押され、本パソコンが正常に動作しないことがあります。
この他、「起動・終了時のトラブル」(→P.141) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いつたん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、Web 上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください (→ P.137)。

発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

セーフモードで起動する

Windows XP Embeddedでは、本機能をご使用になれません。

メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当する障害を検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

診断プログラムを使用する

Windows が起動しなくなったときは、BIOS の起動メニューから起動できる診断プログラムを使用することで、パソコンの障害箇所を診断できます。

診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にお問い合わせの際にお知らせください。

診断時間は通常 5 ~ 10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

重要

- ▶ BIOS の設定をご購入時の状態に戻してください。
診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOS をご購入時の状態に戻してください。詳しくは『取扱説明書』をご覧ください。
- ▶ 起動中のソフトウェアや常駐プログラムはすべて終了してください。
- ▶ スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。
- ▶ ネットワーク機能の診断を行う場合は、あらかじめ固定 IP を設定しておいてください。
- ▶ 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
USB メモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

1 本パソコンを再起動します。

2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Enter】キーを押します。
ポップアップメニューが表示されます。

POINT

- ▶ BIOS セットアップで「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を使用する設定にした場合、パスワードを入力後（指紋を登録した場合は指紋認証後）、認証画面が消えた後、すぐに【Enter】キーを押してください。
- ▶ ポップアップメニューが表示されない場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。

3 【↓】キーを押して、「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

4 【Y】キーを押します。

ハードウェア診断が終了したら自動的にパソコンが再起動し、診断結果が表示されます。

5 次の操作を行います。

- トラブルが検出されなかった場合
【Enter】キーを押してください。

重要

- ▶ 「引き続き詳細な診断を実行します。何かキーを押して下さい」と表示されますが、本パソコンでは詳細な診断は行われません。

● トラブルが検出された場合

画面に表示された内容をメモなどに控え、お問い合わせの際にお伝えください。その後、キーボードの【Y】キーを押してパソコンの電源を切ってください。

6 本パソコンが再起動します。

リカバリ

トラブル発生時の基本操作をした後も回復しない場合には、リカバリを実行します。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

■ リカバリ後も状態が改善されない場合は

リカバリ後も状態が改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

3 起動・終了時のトラブル

□ ビープ音が鳴った

電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。

次のようにビープ音が鳴る場合は、メモリのテストエラーです（画面には何も表示されません）。メモリが正しく取り付けられていない、または本パソコンでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。メモリを正しく取り付けてあるか確認してください。正しく取り付けてもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。市販のメモリを増設している場合は、製造元／販売元に確認してください。

ビープ音によるエラー通知は、「ピッ」、「ピッピッ」、「ピッピッピッ」のように1回または連續したビープ音の組み合わせにより行われます。ここではビープ音の回数の組み合わせを、「1-2-2-3」のように表記します。

- 1-1-1-1
- 1-3-3-1
- 1-3-3-2
- 1-3-4-1
- 1-3-4-3
- 1-4-1-1

重要

- ▶ 上記の組み合わせ以外の鳴り方をした場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

□ メッセージが表示された

電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」（→ P.121）をご覧ください。

□ 電源が入らない

- AC アダプタは接続されていますか？

お買い上げ後最初にお使いになるときなど、バッテリが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してください。また、電源スイッチ付きのACタップをお使いの場合は、ACタップの電源をONにしてください。

- バッテリは充電されていますか？（バッテリ運用時）

・バッテリ残量ランプで、バッテリの残量を確認してください。

バッテリ残量表示、および確認方法については、「取り扱い」－「バッテリ残量を確認する」（→ P.50）をご覧ください。

バッテリが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してお使いください。

- 長期間未使用状態ではありませんでしたか？

長期間お使いにならなかった後でお使いになるときは、AC アダプタを接続してから電源を入れてください。

- AC アダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外してください。
AC アダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外して 2~3 分放置後、再び取り付けると問題が解決することがあります。

□ 画面に何も表示されない

- 電源ランプは点灯していますか？
 - ・点灯している場合
【Fn】+【F6】キー、または【Fn】+【F7】キーを押して明るさを調節してください。
 - ・点滅または消灯している場合
電源ボタンを押して動作状態にしてください。また、バッテリ運用時は、バッテリが充電されているか確認してください。充電されていないときには、AC アダプタを接続して充電してください。
AC アダプタをお使いになっている場合は、コンセント、およびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- キーを操作していましたか？
本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間キーを押さないと CPU が停止したり、液晶ディスプレイのバックライトが消灯したりします（何かキーを押すとバックライトが点灯します）。頻繁に停止してしまうときは、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで省電力の設定を変更してください。
- 外部ディスプレイ出力に設定されていますか？
外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。
「取り扱い」—「表示装置の切り替え」(→ P.63) をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。
- 外部ディスプレイを使用している場合 (→ P.63、→ P.69)、次の項目を確認してください。
 - ・パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？
 - ・セットアップ前に、外部ディスプレイを接続していませんか？
必ずセットアップ後に接続してください。
- 解像度や走査周波数は、外部ディスプレイに合った設定になっていますか？(外部ディスプレイに表示している場合)
そのまま 15 秒くらい待っても、液晶ディスプレイ表示に戻らない場合は、本パソコンを強制終了してください。
その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。
「取り扱い」—「外部ディスプレイの走査周波数」(→ P.73) をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してから、外部ディスプレイ表示へ切り替えてください (→ P.63)。

□ マウス／ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使って Windows を終了させることができます。
 1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。
 2. 【↑】【↓】キーで終了メニューの選択、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。
- マウス／ポインティングデバイスが故障している場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

□ Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順で Windows を終了させてください。

1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されます。
3. 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。



- ▶ 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。

この操作で強制終了されないときは、電源ボタンを 4 秒以上押して（電源スイッチの場合
は 4 秒以上スライドさせて）電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れます。

4 Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関するトラブルを説明します。トラブルに合わせてご覧ください。

□ Windows が起動しなくなった

- 周辺機器を取り付けませんでしたか？
いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.138）。もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。
- 診断プログラムでパソコンの診断をしてください（→ P.139）。
エラーが発生しなかった場合は、リカバリを行い、本パソコンをご購入時の状態に戻してください（→ 『取扱説明書』）。それでも解決しない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- スマートカードスロット搭載機種、またはスマートカードホルダー添付機種で、スマートカードの作成や、BIOS ロック用パスワードを設定せずに BIOS セットアップを次のように設定すると、Windows の起動ができなくなります。
 - ・「セキュリティ」メニュー「スマートカードによるロック」：使用する Windows が正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にお問い合わせください。

□ 省電力機能が実行されない

- 電源オプションや BIOS の設定を確認してください。
省電力機能について、詳しくは「取り扱い」－「省電力」（→ P.81）をご覧ください。

□ 周辺機器の動作が不安定になった

- なんらかの理由でドライバが削除されているか破損している場合があります。
「ソフトウェア」－「ドライバ、ソフトウェアのインストールについて」（→ P.99）をご覧になり、ドライバを再インストールしてください。

□ ログオン時に Windows 起動音が再生されるのが遅い

- DHCP より IP アドレスが取得されていない可能性があります。
ネットワーク環境をご確認ください。

□次のメッセージが表示される

- 管理者権限を持ったユーザーがスタートアップに「Program Neighborhood エージェント」を登録していないにもかかわらず、システム起動時に「Program Neighborhood エージェントが設定情報を更新できません。Web Interface サーバーが使用できないか、または URL が間違っている可能性があります。あるいは、設定ファイルの内容にエラーがあるか、または保存場所が正しくない可能性があります。」と表示される。

保護管理ツール起動時に、「関数 EwfMgrGetProtectedVolumeConfig でエラー（00000001）が発生しました。」

- ・初めて電源を入れ、システムが初期設定をしているときに、電源を切ったりしませんでしたか？

誤って初期設定中に電源を切ってしまった場合はリカバリを実行します。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

5 ハードウェア関連のトラブル

ここでは、ハードウェアに関連するトラブルを説明します。

どのハードウェアに関連するトラブルかわからない場合は、まず「ハードウェア関連のトラブル一覧」(→ P.146)をご覧ください。

インターフェースのご使用について

- 本パソコンでは、あらゆる周辺機器の動作を保証するものではありません。ご使用になる周辺機器については、ご購入元にご確認ください。
- 指紋センサーをお使いになる場合は、別売の「Secure Login Box」、および「SMARTACCESS/Premium」のライセンスが必要です。
- 静脈認証をお使いになる場合は、別売の「Secure Login Box」、「手のひら静脈センサー」、および「SMARTACCESS/Premium」のライセンスが必要です。
- スマートカードをお使いになる場合は、「スマートカードホルダ」が必要です（スマートカードホルダ搭載機種）。

ハードウェア関連のトラブル一覧

- BIOS の「管理者用パスワードを忘れてしまった」(→ P.147)
- 「ユーザー用パスワードを忘れてしまった」(→ P.147)
- パソコン本体起動時に「エラーメッセージが表示された」(→ P.147)
- 「BIOS セットアップが起動しなくなった」(→ P.147)
- 「仮想メモリが足りない」(→ P.148)
- 「ネットワークに接続できない」(→ P.148)
- 「ネットワーククリソースに接続できない」(→ P.149)
- 次の「機器が使用できない」(→ P.149)
 - USB
 - PC カード
 - シリアル
 - パラレル
- 「PC カードが使えない」(→ P.149)
- 「スマートカードが使えない（スマートカードホルダー搭載機種）」(→ P.150)
- スマートカード使用時に「エラーメッセージが表示された（スマートカードホルダー搭載機種）」(→ P.150)
- 「状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色に早い間隔で点滅している」(→ P.150)
- 「状態表示 LED のバッテリ充電ランプがオレンジ色に点滅している」(→ P.150)
- 「バッテリが充電されない」(→ P.150)
- 「画面に何も表示されない」(→ P.151)
- 「ディスプレイの表示が見にくい」(→ P.151)
- 「液晶ディスプレイが閉まらない」(→ P.151)
- 「表示が乱れる」(→ P.151)

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」(→ P.152)
- 「マイクからうまく録音ができない」(→ P.152)
- 「押したキーと違う文字が入力される」(→ P.152)
- 「マウスポインタが動かない」(→ P.152)
- 「マウスポインタが正しく動作しない(USB マウス(光学式)および USB 小型マウス(レーザー式)の場合)」(→ P.153)
- 「マウス／ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない」(→ P.153)
- 「USB デバイスが使えない」(→ P.153)
- 「プリンタを使用できない」(→ P.153)
- 「「パソコンの空冷用通風路にはこりが詰まっている可能性があります。」というメッセージが表示された」(→ P.154)
- 「「パソコンの空冷用ファンが正しく動作していません。」というメッセージが表示された」(→ P.154)
- 「言語オプション選択で日本語以外を選択した後、起動しなくなった」(→ P.154)
- 「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」(→ P.154)

BIOS

□ 管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかるわらず修理は有償となります。

□ ユーザー用パスワードを忘れてしまった

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。パスワードの設定方法については、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.115) をご覧ください。

□ エラーメッセージが表示された

パソコン本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。エラーメッセージの内容と意味については、「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」(→ P.121) をご覧ください。

□ BIOS セットアップが起動しなくなった

スマートカードホルダー搭載機種で、スマートカードの作成や、BIOS ロック用パスワードを設定せずに BIOS セットアップを次のように設定すると、BIOS セットアップの起動ができなくなります。

「セキュリティ」メニュー「スマートカードによるロック」：使用する
この場合は、修理が必要となりますので、ご購入元にご連絡ください。

メモリ

□ 仮想メモリが足りない

本パソコンを再起動してください。

なお、本パソコンのシステムはページングファイルを作成できません。

メモリ使用量の多いソフトウェアをお使いになる場合は、メモリを追加してください。

メモリについては、「周辺機器の設置／設定／増設」－「メモリ」（→ P.90）をご覧ください。

内蔵 LAN

□ ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
 - パソコン本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・1000Mbps で通信している場合、エンハンスドカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上のケーブルを使用してください。
 - ・100Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 以上のケーブルを使用してください。
- 内蔵 LAN に関して、次の項目を確認してください。
 - ・無線 LAN 設定が正しく設定されていますか？

必要に応じて、『IEEE 802.11a/g 準拠 内蔵無線LANをお使いになる方へ』をご覧になり、再度設定などを確認してください。
無線 LAN と有線 LAN で、同じ設定にはできません。
 - ・「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」→「CMD」で次のように入力し、「Reply from ~」という応答が表示されるか確認してください。

```
ping nnn.nnn.nnn.nnn
```

(nnn には通信相手の IP アドレスを入力します)
- ハブに関して、次の項目を確認してください。
 - ・電源は入っていますか？
 - ・ACT/LNK ランプは点灯していますか？
 - ・Speed (1000Mbps/100Mbps/10Mbps/Auto)、Duplex (Full/Half/Auto) の設定は、パソコン側の設定と合っていますか？
- 画面右下の通知領域に LAN の接続状況が表示されますので、確認してください。
- スタンバイ状態にしませんでしたか？

LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイ状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。設定方法については、「取り扱い」－「省電力」（→ P.81）をご覧ください。
- ネットワークケーブルおよびACアダプタを接続していない状態で起動しませんでしたか？
ご購入時の設定では、ネットワークケーブルおよび AC アダプタを接続していない状態で起動すると、LAN 機能は使えません。いったん電源を切り、ネットワークケーブルを接続してから起動してください。

- バッテリ運用時に電源を入れたとき、再起動したとき、ネットワークケーブルが接続されていますか？

ご購入時の設定では、バッテリ運用時に電源を入れたとき、再起動したとき、ネットワークケーブルが接続されているかどうかを確認します。

このときネットワークケーブルが接続されていないと、省電力のため内蔵 LAN が使用不能になります。

内蔵 LAN を使用する場合は、ネットワークケーブルまたは AC アダプタを接続した状態で電源を入れるか、パソコンを再起動してください。

□ ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- 各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

デバイス

□ 機器が使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？

次の機器を搭載した機種で、次の機器が使用できない場合は、システム管理者に「Portshutter」のポート設定が有効になっているか確認してください。

情報漏洩や不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。

- ・ USB
- ・ PC カード
- ・シリアル
- ・パラレル

PC カード

□ PC カードが使えない

- PC カードスロットに正しくセットされていますか？
PC カードが正しくセットされているか確認してください。
- 16bit 対応の PC カードの場合、カードによっては PC カードが使う IRQ を予約する必要があります。

PC カードのマニュアルをご覧ください。

- PC カードのドライバはインストールされていますか？
Windows にあらかじめ登録されていない PC カードの場合は、PC カードに添付されているドライバ（各 OS に対応したもの）をインストールする必要があります。PC カードに添付されているマニュアルをご覧ください。

スマートカード

□スマートカードが使えない（スマートカードホルダー搭載機種）

- スマートカードがスマートカードスロットに正しくセットされていますか？
スマートカードは、専用のスマートカードスロットまたはスマートカードホルダーにセットしてお使いください。

□エラーメッセージが表示された（スマートカードホルダー搭載機種）

- スマートカード使用時にエラーメッセージが表示された場合は、「BIOS」（→P.101）をご覧ください。

バッテリ

□状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色に早い間隔で点滅している

- バッテリは正しく取り付けられていますか？
バッテリが正しく充電できないことを示します。パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも赤色に点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。バッテリパックの交換については、「取り扱い」－「内蔵バッテリパックを交換する」（→ P.53）をご覧ください。

□状態表示 LED のバッテリ充電ランプがオレンジ色に点滅している

- バッテリ運用直後ではありませんか？
バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、保護機能が働いてバッテリ充電ランプがオレンジ点滅することがあります。しばらくして、バッテリの温度が低下し、正常な温度に戻ると、そのときのバッテリ残量を表示します。

□バッテリが充電されない

- ACアダプタは接続されていますか？
ACアダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- バッテリが熱くなっていますか？
状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。
周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することができます。
- パソコン本体が冷えていませんか？
状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。
バッテリの温度が 5 °C以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することができます。

- 充電を途中で中断させていませんか？

充電を始めてから、バッテリの充電が完了するまでの間に本パソコンを使用したり、ACアダプタを取り外したりすると、バッテリの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合は、本パソコンをしばらくの間バッテリで稼働させ、バッテリ残量が89%以下になってから充電してください。また、いったん充電を開始したら、バッテリの充電が完了するまでACアダプタを接続したまま充電を終わらせてください。

ディスプレイ

□ 画面に何も表示されない

- 「起動・終了時のトラブル」(→P.141) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。

□ ディスプレイの表示が見にくい

- ディスプレイは見やすい角度になっていますか？
ディスプレイの角度を調節してください。
- 明るさなどを調節しましたか？
「取り扱い」-「液晶ディスプレイの明るさ変更」(→ P.59) をご覧になり、明るさを調節してください。

□ 液晶ディスプレイが閉まらない

- 間に物がはさまっていませんか？
無理に閉めようとすると液晶ディスプレイに傷を付けることがあります。物がはさまっていないか確認してください。また、クリップなどの金属製品がキーのすき間などに入ると、故障の原因になります。

□ 表示が乱れる

- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ウィンドウの右上にある「最小化」をクリックし、ソフトウェアを最小化します。
 2. タスクバーに最小化されたソフトウェアのボタンをクリックします。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがあります、動作上は問題ありません。
 - ・ Windows 起動時および画面の切り替え時

- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものはありませんか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください (→ P.136)。
- 外部ディスプレイに出力していますか？
外部ディスプレイによっては、対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、設定を変更してください (→ P.73)。

サウンド

□スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
 - ・スピーカーの出力はONになっていますか？
 - 【Fn】+【F3】キーを押して、スピーカーの出力を確認してください。
 - ・音量は正しく調節されていますか？
 - 【Fn】+【F8】キー、または【Fn】+【F9】キーを押して、適正な音量にしてください。
- 音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください。詳しくは、「取り扱い」－「音量」（→P.75）をご覧ください。
- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- サウンドドライバが正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ソフトウェア」－「本パソコンに搭載されているソフトウェアについて説明しています。」（→P.95）をご覧になり、再インストールしてください。

□マイクからうまく録音ができない

- 音量は調節されていますか？
音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「取り扱い」－「音量」（→P.75）をご覧ください。

キーボード

□押したキーと違う文字が入力される

- 【NumLk】キーや【CapsLock】キーが有効になっていますか？
状態表示LEDのNum Lock表示やCaps Lock表示が点灯していないか確認してください。
- 「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？
次の手順で確認してください。
 1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「キーボード」をダブルクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。
 4. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

マウス／ポインティングデバイス

□マウスポインタが動かない

- マウスは正しく接続されていますか？
- ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？(USBマウス(光学式)およびUSB小型マウス(レーザー式)以外の場合)
マウス内部をクリーニングしてください。

- オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？(USB マウス (光学式) および USB 小型マウス (レーザー式) の場合)
オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。

□ マウスボタンが正しく動作しない (USB マウス (光学式) および USB 小型マウス (レーザー式) の場合)

- 次のようなもの上で操作していませんか？
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
 マウスパッドをお使いになる場合は、色が濃く無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

□ マウス／ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使用して Windows を終了してください（→ P.142）。

USB

□ USB デバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- USB デバイスがルートハブ以外に接続されていませんか？
USB デバイスはルートハブに直接接続してください。
- USB デバイスに不具合はありませんか？
USB デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
パソコンを再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。

プリンタ

□ プリンタを使用できない

- 次の点を確認してください。
 - ・プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・プリンタの電源は入っていますか？
 - ・プリンタドライバは正しくインストールされていますか？
プリンタのマニュアルをご覧になり、再インストールしてください。
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？（→ P.148）

パソコン本体のお手入れ

□「パソコンの空冷用通風路にほこりが詰まっている可能性があります。」というメッセージが表示された

- パソコンの空冷用通風路にほこりが詰まっている場合に表示されます。
「今すぐシャットダウン」をクリックして電源を切った後、パソコンをお手入れしてください。お手入れ方法については、「お手入れ」－「空冷用通風路のお手入れ」(→ P.133) をご覧ください。

□「パソコンの空冷用ファンが正しく動作していません。」というメッセージが表示された

- パソコン本体内部の温度が高くなっているにもかかわらず、ファンの回転数が低下している場合に表示されます。
「今すぐシャットダウン」をクリックして電源を切った後、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」にお問い合わせください。

その他

□言語オプション選択で日本語以外を選択した後、起動しなくなった

- 本パソコンでは、日本語のみの対応となります。
詳しくは、「言語オプションの選択」(→ P.13) をご覧ください。
言語オプション変更後に、本パソコンが起動しなくなった場合はリカバリを実行します。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

□使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社の富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) で公開しています。必要に応じてご覧ください。

6 それでも解決できないときは

お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本パソコンに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

なお、記載の情報は、2008年8月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください。

- ソフトウェア（カスタムメイド）
各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

Memo

第9章

仕様一覧／技術情報

仕様やコネクタピン配置などを記載しています。

- | | |
|----------------|-----|
| 1 本体仕様 | 158 |
| 2 その他の仕様 | 161 |

1 本体仕様

製品名称		FMV-TC8360
CPU		インテル® Celeron® プロセッサー 540 1.86GHz
キャッシュメモリ (CPU内蔵)		1次: 32KB 命令 + 32KB データ、2次: 1MB
チップセット		モバイルインテル® GL960 Express チップセット
システムバスクロック		533MHz
メインメモリ		標準 1GB (1GB × 1) 注1 (PC2-4200 DDR2 SDRAM DIMM) ECC なし最大 2GB
メモリスロット		× 2 (空きスロット × 1) 注2
表示機能	グラフィック アクセラレータ	チップセットに内蔵
	ビデオメモリ	最大 128MB (メインメモリと共に) 注3
	液晶ディスプレイ注4	15.4型ワイド TFT カラー 1280 × 800 ドット
	解像度/発色数	液晶ディスプレイ表示: 1280 × 800 ドット / 1677 万色注5 外部ディスプレイ表示: 最大 1920 × 1200 ドット / 最大 1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示: 1280 × 768 ドット / 1677 万色注5
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 + High Definition Audio コーデック
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数、最大 192kHz、24 ビット (再生時) 注8、 サンプリング周波数、最大 48kHz、16 ビット (録音時) 注8、同時録音再生機能
	MIDI 再生機能	ご使用できません。
	スピーカー	ステレオスピーカー内蔵
キーボード		日本語キーボード (キーピッチ約 19mm、キーストローク約 3mm、87 キー、JIS 配列準拠)
ポインティングデバイス注9		フラットポイント
通信機能	LAN	1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T 準拠、Wake up on LAN 対応注10
	無線 LAN 注7注11	IEEE 802.11a (J52/W52/W53/W56) 準拠、IEEE 802.11b 準拠、 IEEE 802.11g 準拠 (Wi-Fi® 準拠) 注12
	内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式
セキュリティ機能	指紋センサー注7	スライド式
	スマートカード注7	スマートカード + PC カード型スマートカードホルダー
	セキュリティチップ	ご使用できません。
	盗難防止用ロック取り付け穴	あり
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I/II × 1 スロット (CardBus 対応)
	外部ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン × 1
	USB 注13	USB2.0 準拠 × 3 (右側面 × 2、背面 × 1)
	LAN	RJ-45 × 1
	オーディオ	マイク注6: φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (入力: 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 10kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、 ヘッドホン: φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力: 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)
	状態表示	LED

製品名称		FMV-TC8360
電源供給方式	AC アダプタ ^{注 14}	入力 AC100V ~ 240V、出力 DC19V (3.16A)
	バッテリ ^{注 15}	標準バッテリパック：リチウムイオン 10.8V / 2000mAh 大容量バッテリパック：リチウムイオン 10.8V / 4000mAh
バッテリ稼働時間 (JEITA 測定法 1.0) ^{注 16}		約 1.2 時間 (標準) / 約 2.4 時間 (大容量)
バッテリ充電時間 ^{注 17}		約 2.5 時間 (標準) / 約 4 時間 (大容量)
消費電力 ^{注 18}		約 23W / 約 63W
電波障害対策		VCCI クラス B
外形寸法 (突起部含まず)		W360.0 × D265.0 × H38.0 ~ 40.5mm
質量		約 2.6kg (標準バッテリパック) / 約 2.7kg (大容量バッテリパック)
温湿度条件		温度 5 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (動作時) 温度 -10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)
プレインストール OS		Microsoft® Windows® XP Embedded with Service Pack 2

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注について

注 1 : カスタムメイドの選択によっては、2GB の場合もあります。

注 2 : カスタムメイドの選択によっては、空きスロットがない場合もあります。

注 3 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、パソコンの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。

注 4 : 以下は、液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です）。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています。
- ・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウから行えます。また、スクリーンセーバーの設定については、Windows のヘルプをご覧ください。
- ・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

注 5 : グラフィックスアクセラレータが outputする最大発色数は 1677 万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。

- ・外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。

注 6 : Citrix Presentation Server の Advanced Edition、または Enterprise Edition のみで使用できます。

注 7 : カスタムメイドの選択によって搭載されています。

注 8 : 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。

注 9 : カスタムメイドの選択によって、USB マウス、USB マウス（光学式）または小型マウス（レーザー式）のいずれかが添付されていることがあります。

注 10 : 100Mbps は 1000BASE-T の理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。

- ・1000Mbps の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したハブが必要となります。また、LAN ケーブルには、1000BASE-T に対応したエンハンスドカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上の LAN ケーブルを使用してください。

・1000Mbps のネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake up on LAN 機能はご使用になれません。

- ・Wake up on LAN 機能は出荷時の設定では使用できません。使用する場合は、BIOS セットアップで設定を変更してください。（→ P.103）。

注 11 : Super AG™ に対応しています。Super AG™ は Super AG™ に対応した無線 LAN アクセスポイントとの通信を行うときのみ利用できます。

注 12 : Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。

注 13 : すべての USB 対応周辺機器について動作保証するものではありません。

- ・外部から電源を取らない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。

注 14 : 矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用 DC/AC 電源など）に接続されると故障する場合があります。

注 15 : カスタムメイドの選択により、標準バッテリか大容量バッテリのいずれかが搭載されています。

注 16：社団法人電子情報技術産業協会の「JEITA バッテリ動作時間測定法（Ver1.0）」(<http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html>)。なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。

注 17：電源 OFF、スタンバイ時。装置の動作状況により、充電時間が長くなることがあります。

注 18：・動作時の最小消費電力（Windows 起動直後の消費電力）／最大消費電力です。

　また、AC アダプタ運用時の消費電力です。

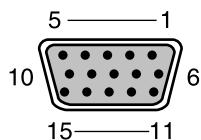
・電源 OFF 時の消費電力は、約 1.0W 以下（満充電時）です。

なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。

2 その他の仕様

コネクタのピン配列と信号名

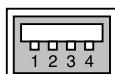
■ 外部ディスプレイコネクタ（ミニ D-SUB15 ピン、メス）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5 ~ 8	GND	—	グラウンド
9	+5V	—	電源 ^注
10	GND	—	グラウンド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	H SYNC	出力	水平同期信号
14	V SYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

注： MAX 300mA

■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	-データ信号
3	+ DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

Memo

索引

B

- BIOS セットアップ 102
 BIOS のパスワード機能を使う 115
 BIOS パスワード 15

C

- Caps Lock ランプ 30

D

- DC-IN コネクタ 25

I

- ICA クライアント 97
 Internet Explorer 96

L

- LAN 78
 LAN コネクタ 26
 LAN 着信によるレジューム 85

M

- Microsoft IME スタンダード 2002 97
 Microsoft Windows XP Embedded with Service Pack 2 96

N

- Num Lock ランプ 30

P

- PC カードスロット 24, 55
 PC カード取り出しボタン 24
 Portshutter 15, 98

S

- Scroll Lock ランプ 30
 SMARTACCESS/Basic 97
 SMARTACCESS/Premium 97
 Support ボタン 21

U

- USB コネクタ 25, 26, 161

W

- Wake up on LAN 85
 Windows Media Player 97

あ行

- 液晶ディスプレイ 20
 お手入れ 127
 音量設定 75

か行

- 解像度 60
 外部ディスプレイ 63
 一コネクタ 25, 161
 外部ディスプレイの走査周波数 73
 管理者用パスワード 115
 キーボード 22, 44
 起動時の自己診断 (POST) 102
 吸気孔 27
 空冷用通風路 133
 コネクタのピン配列と信号名 161

さ行

- システムメニュー 109
 指紋センサー 15, 22
 周辺機器 88
 状態表示 LED 21, 29
 省電力 81
 情報表示ツール 98
 スタンバイ 81
 スピーカー 21
 スマートカードリーダ／ライタ 16
 静脈センサー 16
 セーフモード 138
 全画面表示と通常表示の切り替え 62

た行

- ダストキャッチャー 28
 ディスプレイ 59
 一明るさ変更 59

ーお手入れ	129
テンキーボード	47
テンキーモード	46
電源ボタン	21
電源ランプ	21
盗難防止用ロック取り付け穴	17, 26

な行

内蔵バッテリパック	28
内蔵無線 LAN アンテナ	23

は行

排気孔	27
パスワード (BIOS)	115
パソコン本体のお手入れ	128
発色数	60
バッテリ	48
ー LOW バッテリ状態	51
ー異常表示	50
ー温度アラーム	29, 48, 50
ー交換する	53
ー残量表示	50
ー残量ランプ	30
ー充電ランプ	29, 48
ー取り扱い上の注意	52
表示装置の切り替え	63
フラットポイント	22, 35
プリンタ	94
ヘッドホン端子	24
ポインティングデバイス	35
保護管理ツール	32, 97

ま行

マイク端子	24
マウス	38
マルチモニタ機能	69
無線 LAN	79
無線 LAN アンテナ	23
メッセージ (BIOS)	121
メモリ	90
メモリ (拡張 RAM モジュール) スロット	28

や行

ユーザー用パスワード	115
------------	-----

ら行

ラッチ	20
リモートデスクトップ接続	97

わ行

ワイヤレススイッチ	22
-----------	----

FMV-TC8360

**製品ガイド
B5FJ-7941-01-00**

**発行日 2008年8月
発行責任 富士通株式会社**

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。